

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 二〇 二一

米間通商關係ノ維持發達ハ吾人ノ希望スル所ナリ然ルニ好マシカラザル日本人（商人学生其他ニアラザル移民労働者）ノ入國ハ人の方面（脱）若クハ信仰ノ自由ヲ却テ困難ナラシムル結果トナルヲ以テ其入國ヲ禁ズルニ如カズト説明セリト云フ

桑港ニ転電シホノルルヲ含ム沿岸各領事ヘ暗送セシム

二〇 十二月三十一日 伊集院外務大臣ヨリ  
在米國植原大使宛（電報）

移民委員会ノ構成及ビ審議ノ模様等報告方訓

電ノ件

第七一八号

移民法案及憲法改正決議案ノ付託セラレタル委員会ヲ構成スル委員ノ数、色別、審議ノ模様及其ノ結果ニ関スル予想並之カ対策ニ関スル貴見等隨時電報アリタシ尚移民委員会ノ構成等ニ付テハ十一月二十九日ノ「ニューヨーク・タイムズ」ノ記事ニ依リ一応承知セルモ其後委員數ヲ増員セルヤ否ヤ併セテ電報アリタシ

二一 十二月三十一日 在米國植原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛（電報）

選出共和党「ボラー」ナリ

以上各委員会ノ内下院移民及帰化委員会カ「パブリック、ヒヤリング」ヲ開始シタルコト及今日迄ノ模様大体往電第八五九号報告ノ通ナルカ其ノ他ハ未タ審議ヲ開始シ居ラス

2 外国人土地法關係

二二 一月十日 在シアトル斎藤領事ヨリ  
内田外務大臣宛

本邦人ノワシントン州土地法違反訴訟事件ニ

關スル件

機密公第四号 （一月三十日接受）

大正十二年一月十日

在シアトル

領事 斎藤 博（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

華州土地法違反訴訟事件ニ關スル件

本件ニ關スル大正十一年十二月十四日付通移機密第一三三号<sup>（註1）</sup>

貴信敬承大正十年三月華盛頓州外国人土地法會議會通過

（六月九日同法実施）以来本邦人ニシテ外国人ノ土地所有

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 二二

一六

下院移民及帰化委員会上院移民委員会等ノ委員会ノ構成及ビ審議ノ模様報告ノ件

第八六八号 （大正十三年一月二日接受）

貴電第七一八号ニ關シ

一、下院移民及帰化委員会ハ委員長及委員合計十七名ニシテ内共和党十名民主党七名ナリ委員長ハ華盛頓州選出共和党 Albert Johnson ナリ

二、上院移民委員会ハ委員長及委員合計十一名内六名共和党五名民主党ナリ委員長ハ「ロードアイランド」州選出共和党 le Baron Bradford Colt ナリ

三、憲法改正決議案ノ付託セラレ居ル上院法制委員会ハ委員長ヲ加ヘ合計十六名ニシテ内共和党九名民主党七名ナリ委員長ハ「コンネチカット」州選出共和党「ブランデギー」ナリ下院法制委員会ハ委員長ヲ含メ二十一名内共和党十二名民主党九名委員長ハ「ペンシルバニア」州選出共和党 George S. Graham ナリ

四、十二月十四日付信公第九五八号「マッケラー」法案ノ付託セラレ居ル上院教育及労働委員会ハ委員長ヲ含メ十一名ニシテ共和党六名民主党五名委員長ハ「アイダホ」州

ニ關スル当州憲法乃至其他ノ法律違反トシテ起訴セラレタル訴訟事件ニ關シテハ其數五件ニ上リ等シク土地沒收訴訟ニシテ当州カ原告トシテ告訴シ一モ未ダ正式裁判ヲ得ルニ到ラズ其論争点モ大体同巧異曲ナルヲ以テ左ニ之ヲ一括シテ要領及御報告候条御閱悉相成度尚詳細ニ亘リテハ米國西北部連絡日本人會ニ於テ作製シタル華盛頓州ニ於ケル日本人關係土地沒收訴訟事件梗概添付御參考ノ為供貴覽候<sup>（註2）</sup>

敬具

註1 日本外交文書大正十一年第一冊五〇文書（六五頁）參照  
2 添付書類ハ省略ス

華盛頓州日本人土地沒收訴訟事件

（一）事件起訴裁判所及起訴年月

1 華盛頓州對喰田慶助事件大正十年四月（フランクリン郡上等裁判所）

2 對葛川彰三夫妻及ヴァン・シー・グリフィン夫妻（キング郡上等裁判所）

大正十年七月

3 對平林夫妻及ホワイ・リヴァー・ガーデン

一七

会社（キング郡上等裁判所）

大正十一年六月

4 〃 対大久保勘太郎夫妻及荒井吉雄夫妻（キング郡上等裁判所）

大正十一年六月

5 〃 対楠見隆三郎夫妻林静雄夫妻、エンタープライズ投資会社及日本商業銀行（キング郡上等裁判所）

大正十一年六月

(二)事件ノ内容

日本人が住宅地又ハ農業地ヲ各種ノ形式ニ依リ米国人ヨリ買取り事実上ノ所有權ヲ獲得シ之ヲ使用収益シタルカ当該訴訟提起ニ先チ之ヲ米国人（米國出生日本人兒童ヲ含ム）又ハ米国人ガ過半数ヲ占ムル法人ニ売買又ハ贈与ノ形式ヲ以テ所有權ノ移轉ヲ為シタルモノナリ

(三)起訴理由及動機

右土地ハ華盛頓州憲法及法律ニ違反シテ（必ズシモ一九二一年排外土地法ト指示シ居ラス）処分セラレタルモノナルヲ以テ州ニ没収セラルヘキモノナリ

抑モ華盛頓州ハ其ノ憲法ニ於テ一般ニ外国人ノ土地所有ヲ

禁止シ（遺産相続、抵当流レ、負債代償ノ場合並ニ鉱物採掘及製鍊ヲ要スル土地ハ除外例トス）別ニ土地没収ニ関スル民事訴訟手續法ヲ制定シ一九二一年排外土地法ニ於テハ土地没収規定ヲ同法第一条ノ明文ニ表ハシタルニ過ギズ從テ州ハ必ズシモ同排外土地法実施ヲ俟チテ同法ニ依リテ起訴スルヲ要セズ唯同法ノ制定ガ州官憲及議會ニ於テ外人特ニ日本人ノ土地兼併ガ日ヲ追フテ増大スルヲ惧レタルノ事實ニ鑑ミ各郡檢事ハ其ノ意ヲ体シ此機ニ於テ起訴スルニ到リタルモノト云フヲ得ベク即チ同法ノ制定ガ起訴ノ動機ヲナシタルモノト觀ルヲ妥当トスベシ

(四)論争点

原告側ノ主張ハ目下其ノ告訴狀ニ依リテ窺知スルノ外方途ナキモ大体ニ於テ当該土地ガ憲法上其ノ所有ヲ禁セラレ居ル外人即チ日本人ノ事実上所有スル所ノモノナルヲ以テ当然没収セラルベク假令当該訴訟提起以前ニ憲法上当然所有權ヲ享有シ得ベキ米國個人又ハ法人ニ所有權ノ移轉ヲ為シタルノ形式ヲ具備シ居ルモ右ハ全然當州法律ヲ潜ランガ為ニ為シタル虚偽ノ意思表示ナリト云フニ在ルガ如シ被告側ノ主張点ハ(一)当該土地ハ憲法上土地所有ヲ許容セラ

レ居ル米國個人又ハ法人ガ完全ニ所有セルモノニシテ之ヲ記録ニ徴シテ明瞭ナリ(二)又假令右土地ガ一時憲法上土地所有權ヲ享有シ得ザル外国人ノ所有ニ歸シタル事實有之トスルモ其後其土地ガ善意ノ米國個人又ハ法人ノ所有ニ歸シタル以上州ハ之ヲ没収スルノ權能ヲ有セズ右ハ既ニ當州對

ウォールド・リアル・エステイト会社事件ノ判決（別添日(註)本人會作製土地没収訴訟事件梗概邦文第三頁及英文第一頁以下参照）ニ依リテ明ニシテキング郡裁判所及州大審院ノ是認スル所ニシテ右ノ趣意ハ一九二一年排外土地法第十条ニ於テモ認メラル所ナリ依之觀之原被兩造ノ争点ハ結局原告ガ認定セルガ如キ日本人ガ米國個人又ハ法人トナシタル最後ノ物權契約ガ虚偽假想ノモノナリヤ否ヤノ事實ノ立証問題ニ歸着スルモノト思考セラル

(五)本訴訟ノ予想

前述ノ如ク原被兩造ノ主張ハ訴訟五件殆ド其ノ揆ヲ一ニスルモノニシテ単ニ当該五件ハ契約ノ性質、權利關係、当事者等ニ於テ錯綜セル各個事實アルヲ以テ訴訟ノ歸結ハ各件ニ於ケル事實ノ立証ノ如何ニ依ルモノト解スルヲ得ベク但シ其何レニ決スルモ原被兩造何レヨリカ州大審院ニ上告セ

ラルベキハ明ニシテ其ノ最後ノ決定ヲ見ルハ今後相当時日ヲ要スベシト思考セラル

註 別添書類ヲ省略ス

二三 一月十八日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

ウッドブリッジ加州下院議員排日目的ノ加州

土地法修正起草ニ必要ナル資料ノ研究ヲ加州

議會ニ要求セル件

第二〇号 (一月十九日接受)

一月十八日当地 Examiner ハ下院議員 Mrs. Coran Wood-bridge ガ日本人ハ Cropping Contract ノ方法ニ依リ加州土地法ヲ潜リツツアルヲ以テ之ガ防止ノ方法ヲ提出スル必要アルニ依リ先ヅ加州議會ニ對シ右修正案起草ニ必要ナル該土地法及之ニ関スル判決其ノ他土地法起草後ノ実情ニ関スル報告等ノ研究ヲ為スベキコトヲ要求セル旨並右ハ加州排日協會ノ慫慂ニ基キタルモノニシテ同議員ハ既ニ議員十九名ノ同意ヲ得タル旨ノ同十七日「サクラメント」發電報ヲ掲載セリ不取敢

在米大使及羅府ヘ電報セリ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 二四

二四 一月十八日

在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛

加州ニ於ケル日本人農業者ノ耕作面積等ニ関

シ取調報告ノ件

付屬書

右報告書(加州排日土地法ガ日本人農業者ニ及  
ボセル影響)

機密公第五号

(二月十三日接受)

大正十二年一月十八日

在桑港

總領事

矢田 七太郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

加州ニ於ケル本邦農業者ノ耕作面積等取調方ノ件

本件ニ関シ客年十二月六日付通移機密合第二五一号貴信御

申越ノ趣敬承致候右ハ在米日本人農業者ヲシテ調査セシ

メ別紙ノ通及報告候条御査閱相成度此段回答申進候 敬具

註 通移機密合第二五一号ハ加州ニ於ケル本邦農業者ノ耕作面積

等取調報告方ヲ訓令セルモノナリ

(付屬書)

加州排日土地法ガ日本農業者ニ及ボセル影響(一九三二年十二  
月調査)

目次

計 二十三万六千六百五十三英町歩

第二、加州日本人農業者ノ排日土地法実施ノ為蒙レル

影響

一、一千九百十七年度及ビ一千九百十九年度ノ耕作面積ト

土地法実施後ノ耕作面積トノ比較

加州ニ於ケル日本人農業者ノ排日土地法実施ノ為蒙レル影

響ヲ調査スルニ当リ土地法制定前ニシテ而モ戦時好景氣ニ

伴フテ非常ナル發展ヲナセル一千九百十九年ノ農業狀態ト

普通ナル發展ノ狀態ニアリタルモノト考ヘラルル一千九百

十七年ノ農業狀態トヲ土地法実施後大打撃ヲ受ケタル千九

百二十二年度ノ農業狀態ニ比較スレバ其ノ影響ノ程度ヲ明

白ニ知ル事ヲ得ベシ

一千九百十九年度日本人農業耕作面積

全耕作面積 三十一万六千三百一十一英町歩

内訳

一、土地所有面積 四万七千二百八十七英町歩

二、借地農業面積 十四万七千七百四十九英町歩

三、契約農業面積 十二万一千二百七十五英町歩

之ヲ土地法制定後ノ耕作面積ニ比較スレバ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 二四

二〇

一、排日土地法実施後ニ於ケル日本人農業者耕作面積

二、加州日本人農業者ノ排日土地法実施ノ為蒙レル影響

一、一千九百十七年度及一千九百十九年度ノ耕作面積ト

土地法実施後ノ耕作面積トノ比較

二、排日土地法ガ土地所有農業借地農業及契約農業ニ及

ボセル影響

一、排日土地法ト土地所有農業

二、排日土地法ト借地農業

三、排日土地法ト契約農業

三、排日土地法実施後ノ日本人農業狀態大要

一、在加州(桑港總領事館管内)日本人農業者ノ分布区

域ト其ノ耕作面積

二、現行土地法下ニ於ケル農業經營方法

加州排日土地法ガ日本人農業者ニ及ボセル影響

第一、排日土地法實施後ニ於ケル日本人農業者耕作面

積

一、土地所有面積 四万六千五百四十二英町歩

二、借地面積 七万四千二百二十八英町歩

三、契約農業面積 十一万五千八百八十三英町歩

一千九百二十二年度日本人農業耕作面積

全耕作面積 二十三万六千六百五十三英町歩

内訳

一、土地所有面積 四万六千五百四十二英町歩

二、借地農業面積 七万四千二百二十八英町歩

三、契約農業面積 十一万五千八百八十三英町歩

前述兩耕作面積ヲ比較スレバ左ノ如キ減少面積ヲ見ル可シ

全減少面積 七万九千六百五十八英町歩

内訳

一、土地所有減少面積 七百四十五英町歩

二、借地減少面積 七万三千五百二十一英町歩

三、契約農業減少面積 五千三百九十二英町歩

之ノ統計ノ示ス所ヲ以テスレバ最モ大ナル悪影響ヲ蒙リタ  
ルモノハ借地農業ニシテ千九百十九年度ノ十四万七千七百  
四十九英町歩ノ耕作面積ガ土地法實施後ノ千九百二十二年  
度ニ至ラバ七万三千五百二十一英町歩ノ大減少ヲ示セリ土  
地所有農業ノ七百四十五英町歩ト契約農業ノ五千三百九十  
二英町歩ノ減少ハ土地法實施ノ為ヨリ来レル減少ト云フヨ  
リ寧ロ戦後經濟界ノ變動ノ為大打撃ヲ受ケタル結果トシテ生

二一

シタルモノト見テ差支ナカル可シ然ルニ之ヲ千九百十七年度ノ耕作面積ニ比較スレバ左ノ如シ

千九百十七年度耕作面積

全耕作面積 二十三万〇六十九英町歩

内訳

一、土地所有面積 一万五千八百八十一英町歩

二、借地及契約農業面積 二十一万四千八百八十八英町歩

千九百十七年度ノ農業状態ハ未ダ欧州大戦ノ好影響ヲ受ケズ寧ロ常態ノ發展ヲ為シ来レルモノニシテ之ヲ土地法実施後ノ農業状態ニ比較スレバ左ノ如キ増減ヲ見ル可シ

全増加耕作面積 六千五百八十四英町歩

内訳

一、土地所有増加面積 三万〇六百六十一英町歩

二、借地及契約農業減少面積 二万四千七十七英町歩  
思フニ千九百二十二年ノ耕作面積ヲ千九百十七年度ノ耕作面積ニ比較スレバ前表ニ示スガ如ク六千五百八十四英町歩ノ増加ヲ示シ居レリソノ内容ニ至リテハ借地及契約農業ニ於テ二万四千〇七十七英町歩ノ減少ヲ為シタリト雖土地

所有面積ニ於テ三万〇六百六十一英町歩ノ増加ヲ示セリ且ツ千九百十九年ノ土地所有面積ガ土地法制定実施後ト雖サシタル影響ナキノミナラズ後表ニ於テ示スガ如ク反テ其ノ戸数ニ於テ増加ヲ示セル所ヨリ觀察シテ在加州日本人農業ハ借地農業或ハ契約農業ヨリ漸次土地所有農業ニ推移シツツアルヲ示スモノナリ

二、排日土地法ガ土地所有農業及契約農業ニ及ボセル影響

一、排日土地法ト土地所有農業

千九百十七年度ニハ僅カニ一万五千八百八十一英町歩ノ農耕地ヲ所有セシ日本人農業者ハ千九百十九年度ニハ戦時ノ好景氣ニ伴ヒ一躍シテ四万七千二百八十七英町歩ノ土地ヲ所有スルニ至レリ

千九百二十年十一月制定セラレタル排日土地法ハ農耕地購入ニ對シテ極度ニ制限ヲ付シ今後日本人農業者ニハ全然土地所有ヲ禁ズルニ至リタリ同時ニ戦後俄然經濟界ノ大動揺起リソノ波動遂ニ農業者ヲ襲ヒ大農的ニ農業ヲ經營セシモノハ破産スルノ止ムナキニ至リタリ依之失ハレタル農業地ハ少クトモ六千英町歩ヲ下ラザル可シ然ルニ從來投機の農業ニ趣味ヲ有セシ一部ノ日本人農業家ニ對シテハ土地法ノ

制定セラレタル結果農業經營ニハ必ズ農耕地ヲ所有セザル可カラズトノ觀念ヲ堅クセシメタリカルガ故ニ彼等ノ内地

系市民ヲ有スルモノハ之ニ依ッテ既成土地会社ヲ有スルモノハ之ヲ利用シ各地ニ於テ四十英町歩或ハ八十英町歩ノ小面積ノ農耕地ヲ購入シ土着の小農ヲ經營スルニ至ラシメタリ依之戦時中不健全ナル發展ヲ試ムトナシタル大農組織ノ農業ハ經濟界ノ動揺ノ為ニ倒レ之レニ代テ土着の小農發展シ来リ失ハレタル六千英町歩ノ農耕地ハ殆ド全部回復セラ

ルニ至レリ

左ニ千九百十七年度、千九百十九年度及千九百二十二年

度ニ於ケル土地所有者ノ戸数ヲ示セバ

一、千九百十七年度土地所有戸数 二百二十六

二、千九百十九年度（土地法実施前） 四百四十三

三、千九百二十二年（土地法実施後） 四百七十五

依是觀是排日土地法ハ今後ノ土地所有ニ對シテハ極度ニ制限セラレタレ共既ニ土地ヲ所有セシモノニ對シテ何等ノ影響ナク反テ投機的大農ガ堅実ナル土着の小農ニ變リ土地所有者ノ数ヲ増加セシ傾向ハ殖民政策上ヨリ見テ喜ブ可キ現象ト云フ可シ

二、排日土地法ト借地農業

土地法實施ノ為最モ大ナル打撃ヲ受ケタルモノハ借地農業者ナリ土地法制定前千九百十九年度ニハ十四万七千七百四十九英町歩ノ借地ヲナシ居タルモノガ土地法實施ト共ニ七万三千五百二十一英町歩ヲ減少スルニ至リタリ借地農業ハ在加州日本人農業ニトリテハ最モ大切ナルモノニシテ加州ノ日本人農業者ノ耕作面積ノ約半分ハ之ノ借地農業ノ形式ニヨリテ經營セラレツツアルモノナリ土地法實施ノ影響ハ之ノ借地農業ニ最モ大ナル打撃ヲ与ヘタリト云フ可シ將來モ此ノママ借地權禁止セララルナラバソハ加州日本人農業者ニトリテハ致命傷ト云フ可シ借地農業者ノ借地ヲ失ヒタルモノノ執リタル方針ヲ大別スレバ左ノ四種トナル

一、借地農業經營時代ニ相當ナル蓄財ヲ為シタルモノハ

土地ヲ購入シ土着農業ヲ為スニ至レルモノ

二、土地法試訴ノ結果勝訴トナリタル収獲契約ノ形式ニ

ヨリテ農業ヲ営ムモノ及ビ口約ノ農業ヲ為スモノ

三、帰國或ハ転地セシモノ

四、他ノ職業ニ移リタルモノ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 二四

現行土地法ノ下ニ於テ最モ安全ニ農業ヲ經營シ得ル方法ハ之ノ收穫契約ナリサルガ故ニ土地法実施後ハ之ノ收穫契約面積ガ漸次増加スベキ筈ノモノナルニ反テ多少減少セシ傾向ヲ示シ居レリ之ノ理由ヲ大別スレバ左ノ三種アル可シ

一、元來收穫契約ハ別紙<sup>(註)</sup>ニ示スガ如ク嚴重ナル土地法ニ触レザル様ニ作製セルモノナルガ故ニ地主ト契約者トノ間ノ折合ニ六カ數点アリテ契約者ノ立場ヲ保護セントスレバ地主ニ不利ヲ來シ地主ヲ保護セントスレバ契約者ハ恰モ奴隸農業者トナル如キ事アリテソノ中庸ヲ得ルニ難キ事アルニヨル

二、土地法第九条ハ米人地主ヲシテ恐怖ノ念ヲ懷カシメ危險アル日本人ト契約ヲ取り結ブヨリ寧ロ白人種ノ農業者ニ借地セシムル方安全ナルヲ思ヒ日本人トノ契約ヲ避クルニヨル

三、戦後經濟界ノ動搖ノ為事業中止ヲナシタルモノ多クアリタルニヨル  
元來歩合耕作又ハ收穫契約ノ様式ニテ農業ヲ經營シツツアリタルモノノ大多數ハ經濟力ニ乏シク為ニ地主或ハ直接關係アル会社ヨリ農業經營ニ要スル資金或ハ其ノ他ノ費用ヲ

二四

前借スルガ故ニ契約ノ際ハ常ニ不利ナル契約ヲ為サザル可カラザル状態ニアリタレバ一朝生産物市価ノ落下スルガ如キ場合ハ大ナル打撃ヲ受ケ倒産スルノ止ムナキニ至ルモノ決シテ渺カラズ然ルニ千九百二十年度ノ財界ノ大動搖ハ之ノ種ノ農業者ノ多數ヲ破産セシメ之レガ為ニ契約農業面積ハ著シク減少シタリ然ルニ借地農業ヲ営ミツツアリタル小作者ニシテ土地法実施ト共ニ借地ヲ失ヒタルモノガ之ノ契約農業ニ転ジ或ハ事業ヲ中止セントスル契約農業者ニ相当ノ資金ヲ融通シ共同事業トシテ之ニ転ジタルモノアリテ表面契約農業面積ニハ左程ノ増減ナキモノノ内容ニ至リテハ土地法実施ト財界動搖トノ二方面ノ影響ヲ受ケ大ナル變動ヲ為シタルモノナリ

第三、排日土地法実施後ノ日本人農業狀態大要

一、在加州(桑港總領事館管内)日本人農業者ノ分布区域ト其ノ耕作面積

桑港總領事館管轄区内ニ於ケル日本人農業者ノ發展区域ハ之ヲ大略五区ニ分ツ事ヲ得ベシ

一、「サンタローザ」ヲ中心トシテ發展セル区域ニシテ之ヲ北部沿岸ト称ス

二、「サクラメント」ヲ中心トシテ發展セル区域ニシテ

之ヲ桜府平原地方ト称ス

三、「スタクトン」ヲ中心トシテ發展セル区域ニシテ之

ヲ「サンオーキン」平原ト称ス

四、「フレスノ」ヲ中心トシテ發展セル区域ニシテ之ヲ

中加地方ト称ス

五、「サンノゼ」ヲ中心トシテ發展セル区域ニシテ之ヲ

南部沿岸地方ト称ス

之等ノ地方ニシテ日本人ノ耕作セル面積ハ大約左ノ如シ

一、北部沿岸地方 一万二千英町歩

二、桜府平原地方 九万五千英町歩

三、サンオーキン平原地方 四万七千英町歩

四、中加地方 五万五千英町歩

五、南部沿岸地方 二万八千英町歩

計 二十三万七千英町歩

二、現行土地法下ニ於ケル農業經營方法

加州日本人ノ農業經營ハ大別シテ左ノ三種ト為スベシ

一、土地所有農業

二、借地農業

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 二四

三、契約農業

更ニ各項ニ就キテ其ノ内容ヲ説明スレバ左ノ如シ

第一、土地所有農業、之ヲ土地所有ノ形式ニヨリテ分チテ左ノ三種ト為スベシ

一、千九百十三年度ノ土地法制定前ニ農耕地ヲ購入セシモノニテ直接自己ノ所有ニ歸スルモノ

二、千九百十三年度ノ土地法制定後土地会社ヲ組織シ之ニ依リテ土地ヲ所有スルモノ

三、日系市民タル子女ノ為ニ農耕地ヲ購入セシモノ

第二、借地農業、之ヲ其ノ内容ニ依リテ四種ニ大別スルコトヲ得

一、千九百二十年排日土地法制定セラレントスル際ニ新シク三ケ年間ノ借地ヲ契約セシモノニテ本年一ケ年ハ猶有効ニ借地農業ヲ営ミツツアルモノ

二、既成土地会社ニ依ッテ農耕地ヲ借地シ農業ヲ經營シツツアルモノ

三、丁年ニ達セル日系市民ニ借地セシメ其ノ農園ノ支配人タルノ名義ニヨリテ農業ヲナシツツアルモノ

四、十数年来一日ノ如ク同一農園ヲ借地シ忠実ニ農業ヲ

二五

經營シタル日本人ニ對シテハ地主ハ之ヲ充分理解シ信  
用シ居ルガ故ニ土地法実施後ト雖其ノ儘農園ヲ經營セ  
シメ兩者ノ間ニハ何等ノ契約書ヲ取り換サズ口約ヲ以  
テ農園ヲ經營シツアルモノ

第三、契約農業、之ヲ分チテ二種トナス

一、歩合耕作農業、之ハ新土地法制定前ニ契約ヲ取り結  
ビタルモノニテ今年猶有効ニ農業ヲ經營シツアリ  
二、收穫契約、之ハ土地法制定後試訴ヲ提起シ其ノ結果  
我等ノ勝訴トナリタルモノニシテ現行法下ニ於テ合法  
のニ農業ヲ經營シツアルモノ

上述ノ如ク在加州日本人農業家ハ現行土地法ノ下ニ九種類  
ノ形式ニ依リテ農業ヲ經營シツアレ共猶將來実行シ得ル  
モノハ土地所有農業ニ於テハ第二項、第三項、借地農業ニ  
於テハ第二項、契約農業ニ於テハ第二項アルノミナリ然ル  
ガ故ニ千九百二十年十一月ニ制定セラレタル加州排日土地  
法ハ日本人農業家ノ為ニハ大ナル障害ト云フベシ

註 別紙 Cropping Contract ヲ省略ス

二五 一月二十四日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大正十二年三月三十一日

在シアトル領事

斎藤 博(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本件ニ関シテ屢次ノ電報及公信ヲ以テ報告ノ次第有之候処  
右一括概要及作製候条此段及御送付候 敬具

本信写送付先 在米大使、沿岸各領事

一九二三年華盛頓州議會ト日本人關係立法

第一、開会前ニ於ケル一般形勢

華盛頓州ニ於ケル排日立法運動ハ(一)前期議會(一九二二年)  
ニ於ケル外國人土地所有及借地制限ノ法制ヲ以テ大体一段  
落ヲ告ケタルノ感アリ剩ヘ(二)華府會議ノ一般の影響トシテ  
特ニ日本人ヲ目的トスル各種排斥運動ハ一般ニ不人氣トナ  
リ其結果當地方黃色新聞モ排日ヲ利用シテ人心ヲ收攬セン  
トスルコトヲ手控フル事トナリ(三)又所謂排日煽動家モ土地  
法ノ制定ヲ以テ大体目的ヲ達セリトナシ且日本政府ノ自発  
の移民制限ノ事實上有効ニ実行セラレ居ルヲ認識スルニ到  
リ此上ハ合衆國政府ヲシテ法制上米國生日本人ノ權利ヲ制  
限セシメ太平洋沿岸ニ於ケル黃色人種ノ脅威ヲ芟除セント

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 二六

ウッドブリッジ提出ノ加州土地法修正案二付

報告ノ件

第二六号 (一月二十六日接受)

往電第二〇号ニ関シ土地法修正案ハ一月十九日下院議員  
「ミセス・ウッドブリッジ」ニ依リ議案第一五九トシテ同  
院ニ提出セラレ直ニ委員付託トナリタルカ同案ハ名目及提  
出者名ノミアリテ未タ案文ノ發表之レナキ処右ニ関シ「マ  
クラッチー」ハ同二十三日第十一回日本人問題懇談会ニ於  
テ左ノ通話レル趣ナリ

凡ソ議案ノ提出ハ議會ノ第一期中ニ於テスルヲ原則トナス  
カ故ニ「ウ」ハ未タ案文ノ起草ニ付研究中ナルモ法案名中  
ニ場所ヲ留保シ置ク為取急キ提出セシモノナリ從ッテ實際  
提出サルルヤ否ハ多少疑ノ余地アリ云々  
在米大使在羅府領事ヘ電報セリ

二六 三月三十一日 在シアトル斎藤領事ヨリ  
内田外務大臣宛

一九二三年ワシントン州議會ト日本人關係立

法報告ノ件

機密公第一八号 (四月二十四日接受)

スル運動ニ染手セントスルニ到リタルカ如ク從ツテ当期議  
會開期前ニ於ケル新聞論調等ニ於テモ排日の法制ヲ推奨ス  
ルモノ無ク唯二三新聞ニ於テ前期土地法ノ欠陥ヲ補ハント  
スル新法案ノ提出ヲ見ルヘキ旨余リ目立タル記事トシテ  
掲載セラレタルニ過キス且議會ノ開会ニ臨ミ公表シタル知  
事ノ教書ニモ何等排日の立法ノ推薦ニ説及セス

第二、第十八議會及日本人關係法案ノ運命

第十八議會ハ本年一月八日開会シ三月八日閉会、知事「ル  
イス・エフ・ハート」ハ其教書ニ於テ税制整理、公道ノ完  
成、禁剤法ノ一層嚴密ナル法制等ヲ推奨シタリ而シテ四十  
二上院議員ハ合計二百九十三、九十七下院議員ハ合計二百  
六十七ノ議案ヲ提出シ(約百八十八兩院ヲ通過シタリ)就  
中日人關係法案即チ外國人關係法案ハ頗ル僅少ニシテ今  
其ノ重ナルモノヲ挙グレバ左ノ如シ

(一)千九百二十一年外國人土地所有及借地制限法修正案(下

院法案第七十号「アダム・ビーラー」提出)

(二)藥劑品化学用品販売取締法案(上院案第二十九号藥劑委

員会提出)

(三)食料品販売取締法案(下院案第二百二十九号「マーフィン」

提出)

右ノ内(一)ハ前期議會通過ノ外國人土地法ノ欠陥ヲ補ハントスルモノニシテ兩院ヲ通過シ三月十日知事ノ署名ヲ了リ実施セラルルコトナリ(後述)、(二)ハ藥劑品販賣者資格ヲ合衆国市民ニ限ルノ一項ヲ含ミ(一月二十七日機密公第八号)(三)ハ公共衛生ニ関スル法案トシテ一定ノ食料品販賣者ニ対シ資格試験ヲ行ヒ其出願者ヲ米国市民又ハ米国市民トナル意思ヲ宣明シタルモノニ限定スルノ規定ヲ設ケ(往電第二三号)タリ右二者ハ孰レモ日米通商条約ニ抵触スルモノト思考セラル但シ兩案共委員會ニ於テ握リ潰シトナレリ第三、外國人土地所有及借地制限法修正案

(一) 同案提起ノ原因及動機

抑モ一昨年現行土地法ノ制定ハ日本人農業者ニ實際上及心理上ニ甚大ノ影響ヲ及ボシ彼等ハ一方右法制ヲ一転機トシテ当地方排日氣勢ノ益々濃厚トナルヲ慮リ將來ヲ悲觀シ産ヲ畳ミ故國ニ引上ケントスルモノ及ヒ他ノ事業ニ転セントスルモノノ數ヲ増加シ他方現ニ所持セシ土地又ハ土地上ノ權利ヲ米國出生兒ニ贈与シ後見人ヲ設定シテ有効ニ權利ヲ擁護スルモノ或ハ加州等ニ行ハレントスル収獲契約又ハ之

右A項ハ現行法第二条ニ於テハ單ニ斯ル場合州ハ当該土地ノ沒收權ヲ認メタルモノナルモ之ヲ一層拡充シテ其他ノ土地ノ沒收權ヲ認ムルニ到リ土地所有者ノ処罰ヲ一層嚴密ナラシムルニ到レルモノナリ

又B項ハ現行法ニ於テハ土地カ外國人ノ為ニ信託所有セララルモノナル事實ノ舉証ノ責任ハ州ニ存シ右ノ結果州ハ右事實ノ舉証材料ノ蒐集至難ニシテ實際問題トシテ州カ沒收シ得ル場合少カリキ仍而右修正案ハ右事實ノ舉証ノ責任ヲ土地所有者ニ歸シタルモノニテ当該土地カ外國人ノ為ニ信託所有セララルモノニ非サルノ事實ヲ証明セサル限り当該土地ハ沒收セララルコトトナルモノナリ

(三) 本案ニ対スル議會行動

本案ハ一月二十六日「キング」郡選出下院議員「アダム・ビーラー」(シアトル)ニ依リテ下院案第七〇号トシテ下院ニ提出セラレ第一読會終了、中央政府及移民事務委員會ニ廻付二月二日同委員會通過推薦二月七日第二読會終了二月十五日法制委員會ニ廻付セラレタリ、同委員會「キング」郡選出「イー・エイチ・ガイ」ハ第二項ニ関シ合衆國憲法ニ於テ米國生レ兒童カ平等ニ完全ナル權利ヲ享有スル旨ヲ

ニ類似ノ契約ヲ締結シテ依然現業ニ従事セントスルモノアリ(事業ハ其ノ多數數ニ上ラサルカ如シ)於茲排日煽動家乃至在郷軍人会等ハ之ヲ以テ現行土地法ヲ潜ラントスルモノナリト批難シ遂ニ本年議會開會ヲ機トシ現行法修正案ノ提出ヲ議員ニ推奨シ其結果原土地法案ノ提出者タル「アダム・ビーラー」ハ修正案ヲ提出スルニ至レルモノト觀測セラル

(二) 修正案ノ内容及解釋

千九百二十一年外國人土地所有及借地ニ関スル法律ニ追加スルコト左ノ如シ

第二条、A。土地所有者カ情ヲ知リテ其土地所有者ノ享有スル權利ヨリモ少キ土地上ノ權利ヲ外國人ノ為ニ讓渡又ハ設定シタルトキ州ハ其土地又ハ土地上ノ權利ヲ沒收スル代リニ土地所有者ノ財産中ヨリ之ニ相当スル價格ヲ沒收スルコトヲ得、而シテ其價格ハ衡平法裁判ニ依リ査定セラレ土地所有者ノ財産中ヨリ徵收セラル

第二条、B。外國人ノ未成年子女カ現ニ又ハ今後土地ヲ所有スルトキハ未成年子女ハ之ヲ外國人ノ為ニ信託所有スルモノト推定ス 以上(一月三十一日普通公第二七号拙信)

指摘シ其違憲ヲ攻撃シ多數意見ハ通過ヲ推薦シ二月十六日第三読會ノ後賛成八九、反対六ニテ下院ヲ通過セリ而シテ同案ハ上院ニ廻付セラレ二月二十一日第一及第二読會ノ後中央政府事務委員會ニ廻付、二十二日同會通過、推薦、二月二十八日討論無シニ上院ヲ通過シ三月十日知事ノ署名ヲ了シタリ仍テ一般通過議案ト同シク閉會後九十日目(六月七日)ヨリ実施セララルコトトナレリ

(四) 本案ニ対スル我方態度

本案ノ通過ハ日本人農業者ニ相当影響ヲ及ホスモノナルカ故ニ出来得ヘクンハ之カ通過ヲ阻止スルコト望マシク之カ為ニハ(一)日米國交、人道的見地ヨリ論スルカ(二)案自体ノ條約及法律上ノ欠陥ヲ指摘スルカ(三)原案土地法カ中央大審院ニ繫屬中ナル事態ニ注意ヲ喚起スル等ノ方法ニ依リテ議員ヲ動カスコトヲ勗ムルノ外ナカルヘキモ(ハ)土地法制定ノ大勢ニ鑑ミ効果疑ハシク(二)ハ議會閉會間際ニ本件上程ノ節權宜ノ策トシテハ兎ニ角却ッテ字句推敲ノ機會ヲ与ヘ裁判問題トナリタル際我ニ不利益トナル虞アリ面白カラス唯(三)ノ方法ハ適當ノ方法ニテ議員ノ注意ヲ喚起シ然ルヘク仍而連絡日本人會幹部等トモ充分協議ヲ重ネ下院法制委員ニシ

テ我方ニテ土地法訴訟事件ヲ委嘱セル「ガイ」ニ同人ヨリ適當運動方依頼シ大体ニ於テハ此際消極的態度ヲ採ルコトトセリ其結果前述ノ如ク下院法制委員會ニ於テハ「ガイ」ノ違憲主張ヲ見ルニ到リ且法案反対少數意見トシテ委員會報告ヲ見ルニ到レリ尚二月二十八日同案上院ヲ通過シタルヲ以テ最後ノ試ミトシテ「ガイ」及「ハーヴァースタット」(「ガイ」ト共ニ法律事務共同者ニシテ土地法委嘱弁護士)ノ手ヲ通シテ知事拒否權行使ヲ促進シタルモ知事ハ在郷軍人会等ノ圧迫モアリ遂ニ三月十日之ニ署名スルニ到レリ

(四) 本案通過ノ日本人農業者ニ対スル影響

本案第一段(A項)ハ要スルニ土地所有者ノ取締規定ニシテ日本人ニ(不明)關係ナキモノニテ唯収獲契約等ニ依リテ日本人ヲシテ農業ヲ經營セシメタル地主等モ今後之等契約ノ締結ヲ手控フルコト成ルヘキモ由來収獲契約等ハ農業者ニ取り甚タ危険ナル形式ナレハ要スルニ五十歩百歩タルヘク又第二段(B項)ハ之ヲ嚴格ニ勵行セラルル場合ハ日本人農業者ニ対シ相當恐慌ヲ來ス虞ナシトセス要ハ州檢事ノ手心如何ニ依ルヘシ

(六) 土地法對抗方策

#### 第四、女子成年法改正案

尚一月十九日「ガイ」下院議員ニヨリ女子成年法改正案(下院法案第三五号)提出セラレ上下兩院ヲ通過シ知事ノ署名ヲ了シタルカ右ハ從來女子成年ヲ十八歳トナシタルヲ男子同様二十一歳ニ改正シ主トシテ男女成年年齢ヲ異ニスルノ理由薄弱ニシテ且ツ未熟女子ノ親族法上財産法上ノ輕挙盲動ヲ防止セントスル立法ノ趣旨ナルモノニ依リテ日系米國兒女ノ選舉有權者(目下「シアトル」市ニ於テ十四名ヲ算シ全部女子ニシテ日本國籍離脱者也)數ノ増加ヲ數年間阻止スルノ影響ヲ蒙ルヘシ勿論十七歳以上女子ニシテ既ニ旧法ニ依リ成年ニ達シタルモノニ對シ週及効ヲ生スルモノニ非ス何等御參考迄ニ付加ス

#### 第五、日本人關係法案ニ関スル前期議會比較

日本人關係法案ノ提出數ヲ前期議會ニ比スルニ前期議會ニ於テハ土地法案ヲ始メ國語學校關係法案、黃白雜婚禁止法案、外國字新聞取締法案、「ホテル」雇人ニ關スル排日的法案、外國牧師結婚司式禁止法案等提出セラレタルモノ今期議會ニ於テハ前述二、三法案ニ過キサリシハ排日立法運動ノ下火トナリタルヲ示スモノニシテ注目ニ値ス

(イ)当地有力者間ニハ當州土地法及修正法對抗策トシテ信頼スル米國人ヲ多數トスル土地会社ヲ設立セントノ企画進行中ニシテ右ニ依レハ収獲契約等ノ方法ニ依リ各個地主ノ意嚮ニ依リテ農業經營ヲ左右セラルルカ如キ危険ヲ免レ最モ安全ナル方法ナリト思惟セラル本官モ右ノ如キ計畫ヲ推奨シ居レリ

(ロ)米國出生兒童名義ノ下ニ土地ヲ所有スル邦人相當アリ之等ノ内未タ代金支払未済等ノ為ニ右土地カ抵当付ノモノトナレルモノアリ(抵当額約四五万弗ノ見込)之等ハ此際速ニ此等抵当滌除ノ方法ヲ講スル必要アリ之ハ何等カノ方法ニテ一括シテ相當資金ノ立替ヲ要スルコトナルヘキモ右ハ実害ヲ微少ナラシムルニ最モ必要ナリ

(ハ)修正案第二段(B項)ハ既ニ下院法制委員會ニ於テ「ガイ」議員カ指摘シタル如ク外國人ヲ親トスル米國兒童ニ對スル不平等待遇ニ陥ルモノニシテ法律上係争シ得ヘキ余地アルモノナルヲ以テ当地連絡日本人會幹部間ニハ大体訴訟提起ニ一決シ居リ華州土地法原法訴訟ノ引續トシテ「ガイ」及「ハーヴァースタット」ニ委嘱スルコトナル見込ナリ

#### 二七

四月十日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

加州下院議員ウッドブリッジ歸化不能ノ外國人ハ不動産ニ關シ後見ニ任命サルヲ得ズト  
スル新法案ヲ提出ノ件

#### 第九二号

(四月十二日接受)

下院議員 Woodbridge 夫人ハ四月(脱)大要次ノ如キ新法案ヲ提出セリ

民事手續法中ニ左ノ一項ヲ追加ス

米國市民トナリ得ザル外國人又ハ此等ノ外國人ノ過半数ヲ社員トスルカ又ハ其株式ノ大半ガ此等ノ外國人ニヨリ所有セラルル会社組合社團ハ不動産ガ其全部又ハ一部ヲ構成スル財産ニ關シ後見人ニ任命サルルコトヲ得ズ  
大使ヘ電報シ羅府ヘ郵送ス

#### 二八

四月十六日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

加州下院議員ウッドブリッジ提出ノ加州土地法改正案ノ内容概略報告ノ件

#### 第一〇三号

(四月十八日接受)

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 二九 三〇

往電第六五号ニ関シ

同議案ハ四月五日下院ニ於テ修正ノ上委員付託トナリタルガ一九二〇年土地法トノ相違概略左ノ如シ

一九二〇年土地法第一条乃至第五条第九条第一号ニ於テ新ニ use cultivate occupy 又ハ beneficial use 等ノ字句ヲ挿入シ帰化不能ノ外国人ニ対シ条約ニ定ムル以外ノ目的ノ為ニ土地ヲ使用耕作又ハ利用スルコトヲ禁止スル趣旨ヲ明示シ第八条ニ新ニ收穫契約ニ関スル規定ヲ加ヘ此收穫契約ハ本土地法ニ違反スル不動産上ノ權利ノ設定ヲナスモノニシテ契約ノ当事者ガ帰化不能ノ外国人又ハ株式ノ過半数ガ此等ノ外国人ニ依ッテ所有セラルル会社、組合又ハ社團タル場合ニ於テハ右契約ノ結果ハ總テ州ニ没収セラルルモノト規定ス成文郵送ス

大使ヘ電報シ羅府ヘ郵送ス

二九 四月二十三日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

米合衆國大審院ノ加州土地法ニ対スル三訴訟  
事件ノ審理開始ニ付在米大使ヨリ報告ノ件

第一〇九号 (四月二十五日接受)

「シヤル」ヨリ前日ノ弁論補遺旁陳述シ本件審理終了セリ  
本電大臣「シアトル」羅府ヘ転電アリタシ

三一 四月二十九日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

帰化不能外国人ノ後見禁止ニ関スル法案ハ加  
州下院ヲ通過シ上院ニ廻付セラレタル件

第一一五号 (五月一日接受)

往電第九二号ニ関シ  
四月二十八日 Chronicle ノ報ズル所ニ依レバ同案ハ二十七日下院ヲ通過シ上院ニ廻付セラレタル由  
在米大使ヘ転電シ羅府ヘ郵送セリ

三二 四月三十日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

土地法訴訟事件ニ関スル米國大審院審理ニ於  
ケル原被両告ノ陳述内容在米大使ヨリ報告ノ  
件

第一一六号 (五月二日接受)

在米大使發本官宛電報第七九号  
往電第七七号及第七八号ニ関シ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 三一 三二 三三

在米大使發本官宛第七七号

加州土地法ニ対スル三訴訟(借地收穫契約及株式所有)及「ワシントン」州土地法ニ対スル訴訟各事件ニ関スル合衆國大審院ノ審理ハ四月二十三日開始加州法ニ対スル三訴訟事件ニ付日本人側弁護士「マーシャル」ノ弁論ニ引續キ加州側「ウェップ」検事總長ノ答弁了ノ儘閉廷明二十四日再開ノ筈

本電外務大臣「シアトル」及羅府ニ転電アリタシ

三〇 四月二十八日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

米國大審院ノ加州土地法關係三訴訟事件及ビ  
ワシントン州土地法關係訴訟事件ノ審理ニ付  
在米大使ヨリ報告ノ件

第一一〇号 (四月三十日接受)

在米大使發本官宛電報第七八号  
往電第七七号ニ関シ

二十四日審理続行引續キ「ウェップ」ノ答弁アリタル後華盛頓州土地法ノ審理ニ移リ日本人側弁護士「ハウ」ノ弁論アリ次テ華州検事總長「トムソン」答弁ヲ為シ最後ニ「マ

原被両告側ノ陳述ハ孰モ右「ブリーフ」ノ要旨ヲ敷衍陳述セルモノニ過キサル処「マーシャル」ハ借地收穫契約株式所有ノ順序ニ弁論シ就中借地ノ問題ニ重キヲ置キ条約ノ点ニ触レス全然合衆國憲法修正第十四条ヲ根拠トシ論旨ヲ進メ又「ハウ」ハ華盛頓州法ハ同州憲法合衆國憲法修正第十四条及日米条約違反ナリトノ趣旨ヲ述ヘ「ウェップ」「トムソン」ハ土地法制定ノ趣旨ハ色又ハ人種ノ別ニ依リ土地ニ対シ權利ヲ區別シ居ルニ非シテ帰化權ナキ外国人ノ侵入ニ対シ州權ノ獨立維持ヲ為サントスルニアルモノニシテ何等均等保護規定ノ条項ニ触ルルモノニ非スト答弁シ殊ニ「ウェップ」ハ法理論ヨリモ寧ロ政治論ニ重キヲ置キ日本人ノ加州ニ於テ人口耕地面積學童數等ヲ挙げ日本人ノ勢力ノ怖ルヘク若シ現状ニ放任セハ加州ニ於テ白人種ハ日本人ノ為ニ驅逐セラルヘシトテ排日家一流ノ説ヲ繰返シタルハ日本人側弁護士ノ純法理上ノ点ヨリ論ヲ進メタルニ対シ奇異ナル對照ヲ呈セリ尚判決ハ一二箇月後ナルヘシトノコトナリ  
外務大臣「シアトル」羅府ヘ転電アリタシ

三三 五月三日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

三三

ウッドブリッジ議員提出ノ收穫契約禁止ノ加州土地法改正案原案ノ儘加州下院ヲ通過ノ件

第一一九号 (五月四日接受)

往電第一〇三号ニ関シ

五月三日 Examiner ノ Sacramento 通信ニ拠レハ同案ハ五月二日下院總會ニ付セラレタルカ Santa Cruz 選出議員 Cleveland ハ反対ヲ唱ヘ先ツ農業委員会付託ヲ主張シタルモ五十二対十ノ少数ニテ敗レ次テ同案ヲ全然骨抜トスル修正案ヲ提出シテ再ヒ遂ニ一票ノ反対投票無ク原案ノ儘ニテ下院ヲ通過セリ  
大使ヘ転電シ羅府ヘ郵報ス

三四 五月十五日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

帰化不能外国人ノ後見人禁止法案及ビ收穫契約禁止法案加州上院ヲ通過ノ件

第一三〇号 (五月十七日接受)

往電第一一五号及第一一九号ニ関シ  
新聞通信ニ依レバ両案トモ満場一致ニテ十四日上院ヲ通過セル由

在米大使ヘ電報シ羅府ヘ郵報ス

三五 五月三十一日 在桑港大山総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

帰化不能外国人ノ後見人禁止法案ニ加州知事署名ノ件

第一三八号 (六月二日接受)

往電第一一五号及往電第一三〇号ニ関シ  
当地夕刊 Call ニ拠レハ後見人任命ニ関シ Woodbridge 案ハ五月三十一日知事ノ署名ヲ了シタル由  
大使ヘ転電シ羅府ヘ郵報ス

三六 六月十二日 在桑港大山総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

米國大審院ニ於ケル土地法訴訟事件ノ判決ハ十月一日休暇明け後トナルベキ旨在米大使ヨリ報告ノ件

第一四二号 (六月十三日接受)

在米大使発本官宛電報

第一一四号

往電第七九号ニ関シ六月十一日ヲ最終日トシ大審院ハ暑中

三八 六月二十三日 在桑港大山総領事ヨリ  
内田外務大臣宛

收穫契約禁止法案及ビ外国語学校取締法案ニ對スル加州知事ノ陳述書内容報告ノ件

公第二三一号 (七月十八日接受)

大正十二年六月二十三日

在桑港

總領事 大山 卯次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

收穫契約禁止法案及外國語学校取締法案ニ對スル

知事陳述書ニ関スル件

本件ニ関シテハ拙電第一四七号ヲ以テ大要及御報告置候処該陳述書ハ知事ノ排日問題ニ對スル態度ヲ窺知スル資料トモ可相成ト被思料候条右声明ノ内容左ニ詳報申進候  
(一)收穫契約禁止法

今回ノ收穫契約禁止法ハ本契約ノ効力ニ関スル合衆國地方裁判所ノ從來ノ判決ニ鑑ミ一九二〇年ノ土地法ノ不備ヲ補ヒ以テ一切ノ潜法手段ヲ行フ余地ナカラシメンコトヲ目的ト為スモノニシテ帰化不能ノ日本人及帰化不能ノ其他ノ外

休暇ニ入りタルヲ以テ往電土地事件ノ判決ハ自然来ル十月一日休暇明け後トナルベシ

本電ハ外務大臣、シアトル、ロスアンゼルス、ポートランドニ転電アリタシ

註 在米大使發桑港總領事宛第七九号ハ前掲矢田總領事四月三十日發外務大臣宛第一一六号参照

三七 六月二十一日 在桑港大山総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

加州知事加州土地法改正收穫契約禁止法案ニ署名シ学校法案ニハ署名セザル旨陳述書發表ノ件

第一四七号 (六月二十三日接受)

往電第一四五号ニ関シ

当地各新聞ノ報道ニ依レハ知事ハ六月二十日收穫契約禁止法案ニ署名シ学校法案ニハ署名セザル旨陳述書ヲ發表シタル由

在米大使ヘ転電シ羅府ヘ郵報セリ

註 大山総領事ノ外務大臣宛第一四五号(六月二十日本省着)ヲ省略セリ

國人並ニ是等ノ者カ過半数ノ株式ヲ有スル会社ヲシテ条約ニ規定スル範圍外ノ目的ヲ以テスル土地ノ利用ヲ禁止スルモノナリ

本法律ハ收穫契約ヲ以テ不動産上ノ權利設定ヲ為スモノト規定シ本法ニ違反スル共謀ニ対シテハ罰則ヲ設ケタリ(往電第一〇三号参照)余(知事)ハ本法ノ署名ニ當リ慎重熟慮シタル結果本法ハ日本人ニ依ル加州ノ土地侵蝕ヲ防止シ加州ニ於ケル地方白人ヲ保護スルニ有効ナル法律ナルコトヲ信スルモノナリ

### (二) 外國語學校取締法案

余ハ本取締法案ヲ署名シ日本語學校ノ嚴重取締ヲ希望スルモノナルモ本法第一一條ノ拘束範圍ハ余リニ峻嚴ニ失シ諸私立學校ニ於ケル仏、西、其他ノ外國語教授ヲモ禁止スルコトトナリ修正憲法第十四條違反ト為ルヘキヤヲ惧ルルカ故ニ本法案ニハ署名ヲ為ササルコトニ決シタリ 以上

本信寫送先 在米大使在羅府領事

敬 具

三九 七月二日 在桑港大山總領事ヨリ  
内田外務大臣宛

### 日本人加州土地法違反訴訟事件大要調査報告

ノ件

機密公第三八号 (八月十一日接受)

大正十二年七月二日

在桑港

總領事 大山 卯次郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

加州土地法違反訴訟事件調査報告ノ件

客年十二月二十日付通移機密第二三号貴信ノ趣敬承本件ニ関シテハ事件發生ノ都度及報告置候次第ニツキ土地法制定以來比較的重要ト認メラルル訴訟及目下審理中ニ属スル各訴訟ニツキ其ノ大要ヲ左ニ御報告申進候 敬具

註 日本外交文書大正十一年第一冊五一文書

目 次

一、井上「オブライエン」收穫契約試訴事件

(大正十年十二月二十日合衆國地方裁判所第一審判決、目下合衆國大審院ニ於テ繫屬中)

二、水野「ポーターフィールド」借地權試訴裁判事件

(大正十年十二月十九日合衆國地方裁判所第一審判

決、目下合衆國大審院ニ於テ繫屬中)

三、新宮重助後見人訴訟事件

(大正十一年三月九日在「ユバ」加州地方裁判所ニ於テ最終判決)

四、矢野速雄土地法訴訟事件

(大正十一年五月一日加州大審院ニ於テ最終判決)

五、土地会社株式取得試訴事件

(大正十一年五月二十三日合衆國地方裁判所第一審判決、目下合衆國大審院ニ於テ繫屬中)

六、伊賀田土地法訴訟事件

(大正十二年四月三十日加州控訴院第一審判決、目下加州大審院ニ於テ繫屬中)

七、岡原土地法訴訟事件

(大正十二年六月二十九日加州大審院ニ於テ最終判決)

一、井上「オブライエン」收穫契約試訴事件(大正十年

十二月二十日合衆國地方裁判所判決)

(一) 訴訟提起前ノ経緯

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 三九

(二) 起訴ノ形式

十年十月十三日「サンタクララ」郡米人地主「オブライエン」及日本人井上ノ兩名原告トナリ檢事總長「ウェップ」及同郡地方檢事「クーリッヂ」兩名ヲ被告トシ「インジャンクション」ノ形式ニテ在桑港合衆國地方裁判所ニ試訴ヲ

提起シタリ

(三) 弁論

原告側ノ主張

本土地法ハ帰化権ノ有無ニヨリテ不動産上ノ權利ノ享有ヲ區別スルモノニシテ憲法修正第十四条「合衆國ノ法權内ニ在ル各人ニ對シ均等ナル法律ノ保護ヲ拒ムコトヲ得ス」トノ規定ニ違反スルモノナリ仮ニ一步ヲ讓ツテ本土地法カ該修正憲法ニ違反セストスルモ原告ノ行為ハ本土地法違反ニアラス何トナレハ本收獲契約ノ内容ハ不動産ノ占有、所有讓渡等一九二〇年土地法第一条乃至第二条ニ規定スル帰化不能ノ外國人ニ對スル禁止規定ニ違反セサルモノニシテ純然タル雇傭契約ニ過キス即チ契約書ノ定ムルトコロニ從ヘハ井上ヨリ一定ノ勞務ヲ供給シ其代償トシテ地主タル「オブライエ」ヨリ勞務ノ結果タル收穫ノ歩合ヲ受クルコトヲ内容トスルモノナレハナリ

被告側ノ主張

右ニ對シ被告側ハ收獲契約ハ耕作者カ土地ヲ法律的ニ享有セサルモ事實上之ヲ使用シ其ノ產物ノ一部ヲ取得スルカ故ニ借地ニ異ナラス故ニ土地法違反ナリ又合衆國內ニ

アラスト答弁シタリ右ニ對シ未タ判決ナシ多分本年十月一日夏季休暇終了後判決アル筈

二、水野「ポーターフィールド」借地權試訴裁判事件（大正十年十二月十九日合衆國地方裁判所判決）

(一) 本件試訴提起ノ理由

一九二〇年ノ土地法第一条及第二条ハ其効力ニ於テ本邦人ノ加州ニ於ケル借地權ヲ喪失セシムルコトナルヘキヲ以テ右土地法カ米國憲法修正第十四条及日米通商條約ノ規定ニ依テ与ヘラレタル本邦人ノ權利ヲ侵害スルモノナルコトヲ陳述シ以テ加州檢事總長ニ對スル「プレリミナリー、インジャンクション」ノ發給ヲ大正十年十月十八日合衆國地方裁判所ニ申請シタリ

(二) 試訴形式

南加州「ロングビーチ」在住ノ米國人地主「ポーターフィールド」ト同地本邦人農產物卸売及小売商水野芳太郎トノ間ニ野菜ノ栽培ヲ目的トスル農業地五十英加ヲ五ヶ年ノ期間ヲ以テ賃借スルノ形式ヲトリ右兩人ヲ原告トシ加州檢事總長「ウェップ」及羅府郡地方檢事「ウールワイン」ヲ被

ハ市民、市民トナリ得ル外國人、及市民トナリ得サル外國人トノ三階級アリ其ノ三階級ハ決シテ總テ同等ノ權利ヲ賦与セラレ居ラス其ノ一ニ許セル權利ヲ其ノ二ニ禁シ得合衆國修正憲法第十四条ノ規定ハ其ノ同一階級ノ者ノ内ニ區別ヲ設クルコトヲ禁シタルモノニシテ三階級ニ無差別ニ保護ヲ与ヘタルモノト解スヘカラス故ニ市民トナリ得サル外國人ニ土地所有ヲ禁スルハ合法ナリ

(四) 判決

右原被告兩告ノ弁論ニ對シ合衆國地方裁判所ハ十二月二十日原告側ノ主張ト略同趣旨ノ論旨ヲ以テ原告側勝訴ノ判決ヲ下シタリ

(五) 上告

然ル処檢事總長「ウェップ」ハ右判決ニ不服ナリトシ十一年一月二十日合衆國大審院ニ上告シタルカ右大審院ノ審理ハ本年四月二十三日開始日本人側弁護士ハ修正憲法第十四条ヲ根拠トシテ論旨ヲ進メ之ニ對シ「ウェップ」ハ土地法制定ノ趣旨ハ色又ハ人種ノ別ニ依レルモノニアラスシテ帰化權ナキ外國人ノ侵入ニ對シ州權ノ獨立ヲ維持セントスルニアルモノニシテ何等均等保護規定ノ條約ニ觸ルルモノニ

告トシテ羅府合衆國地方裁判所ニ提起シタリ

(六) 判決

本訴訟ハ本訴訟ト同時ニ合衆國桑港地方裁判所ニ提起セラレタル收獲契約試訴ト共ニ右裁判所ニ於テ公判アリタルカ大正十年十二月十九日原告ノ敗訴ニ歸シタリ其ノ判決文要領左ノ通り

加州土地法ソノモノハ同第二条ニ於テ明ニ條約ノ保障スル範圍内ニテ土地ノ所有利用等ヲ許スカ故ニ日米通商條約ニ違反セス且農業ノ為ノ土地賃借ハ日米通商條約ノ保障セサル所ナリトシ米國憲法及條約上ノ論點ニ関シテハ華州「タコマ」地方合衆國裁判所ニ於ケル華州土地法試訴判決ノ趣意ニ同意セル旨ヲ述ヘ加州土地法ノ「クランフィケーション」即チ加州土地法ハ外人ヲ帰化權ノ有無ニ依リニ區別シ一方ニハ土地所有等ノ特權ヲ許シ一方ニハ之ヲ禁スルノ區別ノ（華州土地法ハ一般外國人ニ一様ニ土地所有ヲ禁ス）不當ニシテ州ノ立法權外ナリトノ原告ノ主張ニ對シテハ單ニ華州土地法モ事實ニ於テハ帰化ノ意思ヲ表示シタル外人ト然ラサル者トニ別チタリト述ヘ州ハ合衆國ノ制定實施シ來レル帰化法ヲ根拠トシテ

如斯土地法ヲ制定シ得ヘシトシ華州土地法判決理由書ノ一部ヲ利用シ「プレリミナリー、インジャンクション」ノ発給ヲ拒絶シタリ

#### (四) 上告

右ノ判決ニ對シ原告側ハ合衆國大審院ニ上告シタルカ同院ニ於テ去四月中審問ヲ終リ未判決ノ儘今日ニ至ル多分本年十月一日夏季終了後判決アル筈

#### 三、新宮重助ノ後見人任命ニ関スル訴訟事件 (大正十一年三月九日最終判決)

本邦人新宮重助ナル者其ノ未成年子女ニシテ米國出生ノ新宮住江及新宮清子ノ為ニ一九一九年四月十二日加州「サッター」郡所在ノ農耕地ヲ米國人「ドーグラス」ナル者ヨリ購求シ其ノ代価三千五百弗ヲ自己ノ計算ニ於テ支払ヲ了シ該不動産ノ讓渡ヲ原所有權者「ドーグラス」ヨリ前記米國出生ノ子女ニ對シ贈与シタル形式トナシソノ所有權者被贈与者ノ名義トナシ更ニ一九二〇年十一月六日右不動産ニ對スル後見人任命ノ申請ヲ「サッター」郡地方裁判所ニ提起シタルカ同裁判所ハ「被告ハ一九一三年土地法ノ規定ニ依

ス故ニ加州民法ノ命スル後見人ノ義務ヲ尽シ得ル資格アルモノト認ム」ト判決シ被告側ノ勝訴ニ歸シタリ

#### 四、矢野速雄土地法訴訟事件 (大正十一年五月一日最終判決)

##### (一) 本件起訴ノ理由

北加「サター」郡「メリスビル」在住本邦人矢野速雄ナル者大正九年十月六日其米國出生ノ孫女「テツブミ」ノ為ニ其ノ名義ヲ以テ果樹園十五英加ヲ買ヒ入レ同年十月二十三日「サター」郡地方裁判所ニ對シ其後見人任命ヲ申請シタル処判事ハ右ハ帰化不能ノ外國人ニ土地所有ヲ禁止スル加州土地法ノ拘束ヲ遁ルル為ノ手段ナリトノ理由ノ下ニ是ヲ拒否シタルヲ以テ同人ハ此ノ判決ヲ不法ナリトシ直ニ加州大審院ニ上告シタリ

##### (二) 裁判

大正十一年十一月十四日加州大審院ニ於テ口頭弁論アリ矢野側弁護士「クロフトン」ハ日本人タル父ノ其未成年者ニ對スル後見人タリ得ル權利ハ米國憲法第十四條修正及日米通商條約第一條第三項外國人人頭稅問題ニ関スル判決例等ニ

リ加州ニ於テハ不動産ノ所有權ヲ有セサルヲ以テ右土地法ノ拘束ヲ免ルル目的ヲ以テ市民權ヲ有スル米國出生ノ子女ヲシテ名義上右不動産ノ所有者タラシメ其ノ実益ヲ自己ノ手ニ納メタルモノニシテ市民權ナキ外國人ノ土地所有ヲ禁止スル一九一三年土地法ノ精神ニ違反スルモノナリ故ニ同法第五條ノ規定ニ拠リ本件不動産ヲ州ニ沒收スヘキモノト認ム」ト判決シタリ

依テ加州檢事總長ハ右ノ判決ニ從ヒ加州民事訴訟手続法ノ規定ニ基キ前記州ニ沒收スヘキ不動産ノ売却並ニ右売却金高ヲ州金庫ニ收納方申請シタリ

然ルニ被告ハ右判決ヲ不服ナリトシ「ユバ」控訴院ニ對シ上告シタルカ控訴院ニ於テハ一九二二年三月九日「本件未成年子女ハ修正憲法第十四條ニ依リ米國市民トシテノ完全ナル保護ヲ享有スルヲ以テ州民法ノ定ムルトコロニ從ヒ合法ニ贈与ノ相手方タルコトヲ得且他ノ未成年米國子女ト同様ソノ身分上及財産上兩親カ後見人トシテ与フル保護ヲ受クル權利ヲ有ス且被告ハ所有者「ドーグラス」ヨリ被贈与者タル被告ノ子女ニ財産權カ移轉シタル後モ能ク目的物件タル不動産ノ保護ニ留意シ其價值ヲ損傷シタルコトヲ認メ

依リ加州法ノ如何ニ拘ラス拒否サルルコトナシトノ理由ヲ述ヘタルカ檢事總長「ウェップ」ハ之ニ對シ即席ニ反駁シ難シトノ理由ヲ以テ答弁ノ延期ノ許可ヲ受ケ改メテ答弁書ヲ提出セリ

##### (二) 判決

翌大正十一年五月一日加州大審院ニ於テ本件訴訟ノ判決アリタルカ其ノ要旨ハ左ノ如シ

「サター」郡地方裁判所ノ矢野速雄後見職認許申請ニ對スル否認判決ハ之ヲ破棄ス

本件上告ニ際シ原告ヨリ提起シタル後見職就任否認ニ関スル一九二〇年新土地法ノ規定ヲ以テ(一)日米通商條約(二)合衆國憲法修正第十四條及加州憲法第一條第二十一項ニ違反ストナス点ニ對スル本大審院ノ解釈左ノ如シ

(一) 後見人タルコトハ身分ニ屬スルモノニシテ日米通商條約ニ保障スル權利特權中ニ包含スヘキモノニアラサルヲ以テ之カ許否ニ関スル問題ハ國內法上ノ問題ナリ

(二) 米國市民タル未成年者ノ父母ハ無能力者ニアラサル限り其ノ子ノ後見人タルコトヲ得ルヲ以テ特種ノ人民ニ對シテノミ之ヲ否認スル前記新土地法ノ規定ハ勝手ニ差別

の待遇ヲ設ケタルモノニシテ合衆國憲法修正第十四条法律上平等保護ノ規定ニ違反ス

(三)米國市民ハ人種ノ如何ニ依リ其ノ特權ヲ否認サルヘキモノニアラサルヲ以テ日系米人ニ對シテノミ其父母ヲ後見人トシテ有スル特權ヲ否認スル前記新土地法ノ規定ハ合衆國憲法修正第十四条及加州憲法第一条第二十一項ニ抵触ス

付、右判決ニ對スル弁護士「エリオット」ノ見解

(一)未成年者ノ父タル日本人ハ無能力者ニアラサル限り加州法律ノ規定ニ從ヒ其子(加州出生ト否トニ拘ラス)ノ身分及財産上ノ後見人タルコトヲ得

(二)米國出生日本人未成年者ハソノ父カ無能力者ナラサル限り之ヲ後見人ニ任セシムル權利ヲ享有ス

又右判決ノ結果一九一三年及二十年ノ土地法中ノ他ノ諸規定ニ就テモ其ノ根拠ヲ後見ノ場合ト同様ノ差別的待遇ニ置クモノハ憲法違反ナルコトヲ明白ニセリ

「エリオット」ノ意見ハ外國人ヲ「エリジブル」ト「インエリジブル」トニ區別シ此ノ區別ニ基キテ制定シタル法規ハ總テ憲法違反ナリト主張シ得ヘシ即チ一九一三年

及二十年ノ土地法ノ全部ハ此ノ區別ニ基キ制定シタル法規ナルヲ以テ之ヲ法廷ニ持出セハ後見ノ規定同様全部違憲ノ判決ヲ期待シ得ヘシト云フニ在リ

(四)加州檢事總長ノ再審要求

加州檢事總長ハ加州大審院ニ於ケル矢野事件ノ判決ヲ不服ナリトシ加州民事訴訟法ニ依リテ大正十一年五月二十日同院ニ對シ本件再審ノ請願書ヲ提出シタルカ其理由ハ合衆國各州ハ建國以來州内ノ土地ニ對シ絶對的支配權ヲ有スルヲ以テ原則トナスカ故ニ此ノ精神ニ違反シテ下サレタル同院ノ本件判決ハ再考ノ余地充分ナリト云フニ在リタルカ右再審ノ請願ハ五月三十一日却下セラレタリ

五、土地会社株式取得試訴事件(大正十年五月二十三日合衆國地方裁判所判決)

(一)本件試訴提起ノ理由

本件試訴提起ノ目的ハ合衆國憲法修正第十四条及日米通商條約第一条ニヨリ一九二〇年加州土地法第三条ノ無効ナルコトヲ理由トシテ同条ノ施行停止命令ノ發給ヲ合衆國地方裁判所ニ申請スルニアリタリ

(二)本件訴訟ノ内容及形式

加州法ニヨツテ設立セラレ且米國人カ其ノ株式ノ過半数ヲ所有シ農業ニ関スル營業ヲ目的トスル「マーセド」農業土地会社ノ株式二十八株ヲ所有シ居タル米國人「レイモンド・フリック」ナル者ヨリ本邦人佐藤ニ對シ右所有株式ヲ売渡ス形式トナシ大正十一年三月加州檢事總長「ウェッブ」及桑港地方檢事「ブラデュー」ヲ被告トシ前頭「レイモンド・フリック」及佐藤ヲ原告トシ合衆國地方裁判所ニ試訴ヲ提起シタリ

(三)判決

右訴訟ニ對シ大正十一年五月二十三日原告ノ敗訴ニ帰シタリ判決文要旨左ノ通り

(一)原告ハ市民タルコトヲ得サル外國人ナルヲ以テ加州内ニ於ケル不動産上ノ權利ヲ取得スルヲ得ス  
(二)加州内ニ於テ加州法ニ依リ農業上ノ目的ヲ以テ設立セラレ且現ニ農業用地ヲ所有セル土地会社ノ株式ヲ如斯外國人ニ於テ取得スルコトハ加州外國人土地法第二条ニ依リ禁止セラレタル不動産上ノ權利ヲ取得スルコトトナルヲ以テ檢事總長ニ於テ同法第七条及第八条ニヨリ之ヲ州

ニ沒收スルノ手續ヲトルモ之ヲ以テ日米通商條約及合衆國憲法修正第十四条違反ナリト稱スルヲ得ス

(四)

右判決ヲ不服ナリトシ原告側ハ合衆國大審院ニ上告シタルカ本訴訟ハ去ル四月同院ニ於テ審問アリタルモ未タ判決ナシ

六、伊賀田土地法訴訟事件(大正十二年四月三十日加州控訴院判決)

本件ハ大正十年八月「ソノマ」郡「ベタルマ」在住伊賀田カ弁護士「コックリン」ノ助言ニ基キ同人ト契約シ其ノ子(米國出生)ノ為土地ヲ購入シ米貨百五十弗ヲ第一回分トシテ支払ヒ之ヲ「コックリン」ノ名義ニ移シタル処同郡ノ「グラント、ジュリー」ハ之ヲ以テ一九二〇年土地法第十条ニ規定スル共謀犯トナシ郡檢事ニ對シ告發狀ノ發給ヲ要求シ其結果同十一月伊賀田「コックリン」共ニ土地法違反者トシテ拘禁セラレタリ

然ルニ本件弁護士「クラフトン」ハ(一)刑罰ノ規定ナキ法律ノ条項ニ違反スル共謀ハ法律上ノ犯罪ヲ構成セス(二)本件ハ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 三九

米國市民タルヲ得サル外國人ニ土地所有ノ權限ヲ讓渡スルノ結果ヲ生セサルヲ以テ前掲土地法ノ共謀犯ヲ構成セストノ二理由ニ依リ人身保護律ノ適用ヲ受ケ當然放免サルヘキモノナリトノ主張ニ基キ郡裁判所ニ於ケル正式裁判ニ先チ加州大審院ニ對シ右兩名ノ放免ヲ請願シタリ

然ルニ大正十一年五月十六日州大審院ハ左ノ理由ニ基キ本件訴願ヲ却下セリ

- 一、本件契約ハ土地法第十條ニ規定セル共謀罪ニ該當ス
- 二、訴願人ハ刑罰ノ規定ナキ法律ノ條項ニ違反スル共謀ハ法律上ノ犯罪ヲ構成セスト主張スルモ本院ハ之ニ同意セス

三、本件判決ハ矢野後見人事件判決ト抵触セス蓋シ矢野テツブミハ米國出生ノ市民ニシテ財産權享有上他ノ市民ト何等區別セラルヘキモノニ非サルニ反シ本件訴願人ハ市民タルヲ得サル外國人ニシテ農業用地ヲ所有スルヲ得サルモノナルヲ以テナリ

右ノ結果本件ハ再ヒ「ソノマ」郡裁判所ニ於テ裁判ヲ続行シタルカ訴願人側ノ敗訴トナリ六月三十日七百五十弗ノ罰金刑ニ処セラレタルヲ以テ該訴願人ハ此ノ判決ヲ不當ナリ

四四

トシ在「サクラメント」加州控訴院ニ控訴シタルカ大正十二年四月三十日右控訴院ヨリ土地法第十條ニ依リ有罪ノ判決アリ七百五十弗ノ罰金刑ニ処セラレタルヲ以テ更ニ加州大審院ニ對シ上告シタリ

七、岡原土地法訴訟事件（大正十二年六月二十九日最終判決）

加州「プラサ」郡在住本邦人岡原ハ米人「ヴィセンシオ」Vicencio 所有ノ土地二十英加ヲ開墾スル為一英加五十弗ノ割合ヲ以テ現金支払ヲ受ケ尚開墾後之ニ果物野菜等ヲ植付ケ其收穫高ヲ折半スルノ契約ヲ為シ之ヲ大正十一年二月同郡登記所ニ登録セシ処排日協會會頭「インマン」ハ之ヲ以テ收穫契約ノ法式ニ則ラサル加州外人土地法違反ノ契約トナシ檢事總長ニ對シ其旨申告セシ結果大正十一年五月二十五日同郡檢事ヨリ郡裁判所ニ對シ該契約無効ノ起訴ヲナスニ至リ其ノ結果岡原ハ六月一日郡檢事ヨリ外人土地法違反トシテ拘引サレタルカ同人ハ直ニ加州大審院ニ對シ本件ハ純然タル收穫契約ニシテ土地法違反ニアラストノ理由ニ依リ人身保護律適用ノ請願ヲ加州大審院ニ提出シタルカ本

年二月弁論アリ六月二十九日大審院ハ「加州法中ニ禁止規定ナキ收穫契約ヲ禁止スルコト不可能」ナリトノ理由ヲ以テ被告勝訴判決ヲ与ヘタリ

四〇 十一月十二日 在米國植原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛（電報）

借地權ニ関スル水野及ビ中塚ノ試訴ハ米國大

審院判決ニ於テ何レモ敗訴トナリタル件

第七三六号 （十一月十四日接受）

大審院ニ繫屬中ナリシ土地争ニ関スル試訴中借地權ニ関スル加州水野及華盛頓州中塚關係ノ件ハ十一月十二日大審院ノ判決ニ依リ邦人側ノ敗訴ニ歸セリ判決ハ「バトラー」判事ニ依リテ下サレタルガ其理由ハ市民タル意思ヲ表示セズ又ハ市民タルヲ得ザル者ニ對シ土地所有又ハ借地ヲ禁ズル州法ハ憲法又ハ條約違反ニアラズト言フニアリ委細後報桑港及シアトルヘ転電セリ

四一 十一月十三日 在米國植原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛（電報）

借地權ニ関スル邦人試訴ニ對スル米國大審院

判決理由中州法ハ憲法及ビ日米條約違反ニア

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 四〇 四一

ラズトセル根拠報告ノ件

第七四〇号 （十一月十五日接受）

大審院判決理由中

第一、本件州法ハ憲法違反ニアラストノ点ニ付テハ憲法補則第十四條ノ規定ハ公安維持ニ関スル州ノ權力ヲ妨クルモノニアラス農地ヲ所有占有使用スルモノノ性質及忠誠如何ハ州ノ公安ニ関スルモノニシテ州ハ條約ニ規定ナキ以上外國人ニ對シ土地所有等ヲ禁スル權能ヲ有ス尚帰化シ得ルモノヲ白人及黑人ニ限レル憲法ノ規定ハ州法カ帰化權ノ有無ニ依リテ土地ニ関スル權利享有ニ差別ヲ設クルニ付有力ナル基礎トナルト為シ

第二、本件州法ハ日米條約違反ニアラストノ点ニ付テハ同條約第一條ハ日本人ノ權利ヲ列記的ニ規定シ居ル處本件借地權ノ如キハ何等ノ規定ナキヲ以テ條約抵觸問題起リ得スト為セリ尚本件判決ニ當リ「マクレールノルズ」及「ブランダイス」兩判事ハ本件ニ付テハ justiciable question 存在セストノ理由ニ依リ却下說ヲ採リタルモ判決ハ equity 上之ヲ下シ得トノ見解ニヨリ下サレタリ又「サザランド」判事ハ右判決ニ干与セス

委細ハ木曜日判決写入手ノ上電報スヘシ  
尚收穫契約及株式会社ニ関スル補償ニ付テハ未タ判決ナシ  
桑港及沙港ヘ転電シ桑港ヨリ沿岸各領事ニ転電セシメタリ

四二 十一月十三日 在桑港大山総領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛

加州外国人土地法ニ対スル合衆国大審院判決  
ニ関シ加州検事総長ウェップ陳述書ヲ發表ノ  
件

公第四二八号

(十二月十七日接受)

大正十二年十一月十三日

在桑港

総領事 大山 卯次郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

本月十二日合衆国大審院ニ於テ邦人側敗訴ノ判決アリタル  
華州及加州ニ於ケル土地所有權及借地權判決ニ対シ十二日  
加州検事総長「ウェップ」ハ大要左ノ如キ陳述書ヲ發表シ  
タル由ニ有之候

帰化不能ノ外国人ニ対シ土地所有權及借地權ヲ禁止スル  
加州外人土地法カ合衆国憲法ニ違反セストノ今回ノ大審

審院判決ニ対シ今日迄ノ判決ヲ是認セリ

「ボルチモア・サン」ハ右判決ハ正当且理論的ニシテ先例  
及法規ノ明文ニ照シ他ニ判決ノ下シ様ナカルベキモ日米間  
ニ良好ナル感情増進シツアル此際排斥ノ判決ガ新ニ刺激  
ノ原因トナルハ遺憾ナリ本問題ハ各方面ヨリ謂フベキ点多  
キモ日本ハ米國人ニ対シ農業地ノ所有權又ハ借地權ヲ与ヘ  
ズ日本モ加州及華盛頓州ニ於ケルガ如キ状態自國ニ起ラバ  
必ズ之ニ反対スルナラン玆ニ最モ必要ナルハ今後起リ来ル  
形勢ニ対シ憎悪ヲ交ヘズ同情ヲ以テ処理スルニアリト論ジ  
「紐育トリビューン」ハ判決ニ述ブルガ如ク市民ニアラズ  
又市民ニナリ得ザル者ハ州ノ福祉ノ為有効ニ働ク利害モ力  
モナキヲ以テ州ハ彼等ニ対シ土地所有又ハ借地ヲ禁ズル權  
ヲ有ストナシ日本ハ外国人ニ土地所有權ヲ与フルニ極端ニ  
用心深キヲ以テ加州及華盛頓州ニ対シ不服ヲ訴フルヲ得ザ  
ルベシ日本ノ不服ハ日本ヲ帰化不能ノ部類ニ入レタル点ニ  
アルモ何人ニ市民權ヲ与フルヤハ各国ノ權内ニアリトナセ  
リ「フィラデルフィア・インクワイヤラー」ハ日本人ハ判  
決ヲ不快トスベキモ抗議ヲ提起スベキ理由ナシ蓋シ日本自  
身外国人ニ土地所有ヲ禁止シ居レリ米國人ガ同化シ得ズ且

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 四四

院判決ハ加州ニ対シ最モ満足ナル判決ニシテ加州ノ一大  
勝利ナリ次ニ吾人ハ收穫契約並ニ土地会社ノ株式所有權  
ニ対スル判決ヲ興味ヲ以テ俟ツツアリ

尚前「サクラメント・ビー」紙出版人ニシテ従来加州排外  
土地法擁護ノ急先鋒タル「ヴィ・エス・マックラッチー」  
ハ「大審院今回ノ判決ハ加州立法府ニ於テ右外人土地法ノ  
制定ニ努力シタル者ノ熱心ニ期待シタル所ニシテ同法ハ單  
ニ合法的ナルノミナラス總テノ政党ニ対シ公平ナルモノニ  
シテ且国防ノ安全ヲ期スル為ニモ絶對的ニ必要ナルモノナ  
リ」ト陳述致居候

右新聞記事切抜相添御報告申進候 敬具

本信写送先 在米大使 芝崎羅府領事代理

註 新聞切抜ヲ省略ス

四三 十一月十四日

在米國壇原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

邦人借地權ニ付テノ米國大審院判決ニ関スル

新聞論調報告ノ件

第七四九号

(十一月十六日接受)

邦人借地權ニ関スル新聞論調ハ左ノ通りニテ大体ニ於テ大

生活ノ競争者タル外国人ノ發展ヲ怖レタリトテ彼ヲ咎ムベ  
キニアラズ若シ自己防衛ノ手段ガ法廷ニテ否定セラレシト  
センカ其結果ハ却ツテ不滿ヲ起シ圧迫的且不正ノ手段劇甚  
ニ行ハルルニ至リシナラン然ルニ此事ナク大審院ガ国家的  
利益ノ(脱)ナリシハ慶賀スベシトセリ

「ブルックリン・デイリー・イーグル」ハ大審院ノ判決ハ  
単ニ已ニ確定シ居ル現状ヲ確認セルモノナリトシ尚日本ハ  
夙ニ合衆國帰化法ニ対シ異議ヲ挾メルガ右法律ヲ弁護スル  
コトハ困難ナリ蓋シ米國出生日本人ノ児ガ米國市民トナル  
ニ其父母ガ帰化シ得ズトハ理由ナシ議會ハ不公正且不必要  
ナル叙上ノ差別ヲ除去スルコトニ依リ日本トノ良好ナル関  
係ヲ増進シ得ベシト論ズ

桑港ヘ転電シ桑港ヨリ「ホノルル」ニ転電シ沿岸各領事ニ  
郵報セシム

四四 十一月十八日

在米國壇原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

加州邦人借地問題ニ関スル米國大審院判決文

ノ内容報告ノ件

第七五三号

(十一月二十日接受)

加州邦人借地問題ニ関スル大審院判決全文本日入手シタル  
カ右判決ハ先ツ上告人申立事件ノ要領及加州土地法第一条  
及第二条其他ノ關係事項ヲ示シ更ニ日米通商条約ハ日本臣  
民ニ對シ農業地所有若クハ賃借權ヲ付与シ居ラサルコトヲ  
記シタル後本事件ハ華盛頓州土地法ニ関スル Terrace 其  
他 Thompson 訴訟事件ト同種ニシテ前者ニ含マルル論點  
ハ全部後者ニ於ケル論點ニ包含セラレ居リ唯華盛頓州土地  
法ニ於テハ市民ト為ルノ善意ノ意志表示ヲ為ササル外国人  
ニ對シ借地ヲ禁シ從ツテ市民ト為ルノ資格アル外国人ノ兩  
者ヲ含ムニ反シ加州土地法ニ於テハ単ニ市民權獲得ノ資格  
ナキ外国人ノミニ借地ヲ禁スルモノナルカスノ如キ区分ヲ  
設クルニ付テハ各州ハ格別ノ事情ニ基キ自由裁量ヲ有ス依  
ツテ加州法規カ市民トナル資格ヲ有スルモ其意志ヲ表示セ  
サル外国人禁止ノ部類ニ包含セシメサリシコトヲ以テ不法  
不合理ト断スルノ理由ヲ認メ難キ旨判理シ最後ニ華盛頓州  
土地法ニ関スル判決ハ本事件ノ判決ヲ control スル旨付言  
セリ尚本件審理ニ當リ「マクレノルズ」「ブランドイス」  
兩判事ハ本件訴訟ニハ何等 justiciable question 存在セサ  
ルヲ以テ之ヲ却下スヘキモノナリトノ意見ヲ持スル旨及

地法ノ制定ニ奮闘シタル「フィーラン」「ジョンソン」「イ  
ンマン」等ノ先輩ニ感謝セザルヲ得ズ吾人「ハースト」新  
聞紙ハ移民問題ニ関シテハ常ニ「州ノ福利増進ニ何等痛切  
ノ利害關係ナキ帰化不能ノ民族ニ土地所有權又ハ借地權ヲ  
享有セシメナバ終ニ全州ノ土地ヲ挙ゲテ市民ニ非ザルモノ  
ノ所有ニ帰セシムル惧ナキヲ保セズ」トノ主張ヲ以テ戦ヒ  
來レリ

## 二、「サクラメント・ビー」

今回ノ判決ニ依リ各州ハ条約ニ規定ナキ限り州内ノ土地所  
有ヲ外国人ニ對シ禁ズル權能アルコトハ明文ニ依リ決定セ  
ラレタリ自余ノ二件收穫契約及土地会社ノ訴訟モ根本問題  
ノ判決有利ニ決シタル以上最早問題トスルニ足ラズ今ヤ加  
州ハ白人ノ為ノ加州タルコトヲ永遠ニ保証セラレタリ此上  
ハ本土地法ノ勵行ト帰化不能ノ外国人ノ入國ヲ絶對ニ禁止  
スル移民法ノ制定アルノミ後者ハ今期議會ニ提出セラルベ  
キ「ジョンソン」移民法案ニ依リ満足ナル解決ヲ見ルベシ  
三、「ブレチン」

本土地法ガ日米条約ニ抵触セズトノ點ハ從來既決ノ問題ニ  
シテ第一第二ノ加州土地法制定當時日本最高ノ法律家ノ承

「サザーランド」ハ本件審理及判決ニ参加セサリシ旨記載  
セリ

桑港ヘ転電シ沿岸各領事ヘ転電セシメタリ

## 四五 十一月十八日

在桑港大山總領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

邦人借地權ニ関スル米國大審院判決ニ関スル

桑港諸新聞ノ論調報告ノ件

## 第二二三号

(十一月二十日接受)

大審院今次ノ判決ニ関スル当地新聞論調左ノ通り

一、「エグザミナー」

大審院今次ノ判決ハ單リ加州及華盛頓州ノ勝利タル而已ナ  
ラズ米國及米國第一主義ノ勝利ヲ意味ス加州ノ農園ハ過去  
十年間ノ愛國者ノ奮闘ニ依リ破壊的ナル生産手段及低級ナ  
ル生活標準ヲ有スル教養低キ黄色人種ヨリ土地所有權並ニ  
借地權ニ對スル脅威ヲ免レタリ今回ノ判決ニ依リ最モ欣賀  
スベキハ本判決ノ結果米國的「センチメンタリズム」ニ中  
傷シタル米國政治家並ニ外交官ガ鬱クトモ加州ノ問題ニ関  
スル限リ米國的人道主義ヲ窃ニ嘲笑スル專制主義ノ日本政  
治家ニ對シ強硬外交ヲ為シ得ルニ至レル點ナリ吾人ハ本土

認シタル所ナリ殘ルハ收穫契約ノ問題ナルガ本契約ハ事実  
上借地契約ニ代ル性質ヲ有シ日本人ガ固有ノ生産手段及生  
活程度ヲ維持シツツ土地ヲ使用スルモノニシテ此種契約者  
ガ増加スル場合ハ其圧迫ヲ受ケ白人農業者ハ其高級ナル生  
活標準ヲ維持シ得ザルニ至ルベシ加州ハ国籍民族宗教ノ如  
何ニ因リテ日本人ヲ排斥スルニアラズ加州白人農業者ヲシ  
テ生活程度低キ日本人ト競争セシムルニ堪ヘザレバナリ排  
日ノ理由ハ一ニ生活程度ノ問題ニアリ断ジテ国民性ノ優劣  
ニ存セズ日米關係ハ華府會議以來愈々親善ヲ加ヘ來レルニ  
(脱)問題ノ為動モスレバ暗影ヲ投ズルコトアルハ吾人ノ遺  
憾トスル所ナリ

## 四、「ジャーナル」

日本ハ自國ニ於テ米國人ニ對シ他ノ外国人ト同様ニ土地所  
有ヲ禁止セルガ日本人ハ之ヲ以テ差別待遇ト認メ居ラズ而  
モ是レ人種差別ニ基ク立法ニアラズシテ何ゾ日本人ハ自ラ  
ヲ持スルコト高ク他ノ外国人ト對等ナル待遇ヲ受クルコト  
ヲ要求スルモ加州ノ日本移民ハ到底他ノ白人ト同一視スル  
コト能ハザル生活狀態ニアルヲ如何セン

尚右ノ外「フレシノ」「ストックトン」其他重ナル地方ノ

諸新聞モ右ト大同小異ノ評論ヲナシ居レリ

四六 十一月十九日

在米國植原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

加州土地法ニ関スル米國大審院判決ニ付詳報

ノ件

第七五五号

(十一月二十一日接受)

加州土地法ニ関スル大審院判決ハ先ツ事件ノ要領原告ノ主張及加州憲法第二條第三十三節及土地法ノ要点ヲ示シ左ノ趣旨ヲ明カニセリ

第一 法廷ハ本事件ニ對シ Equitable relief ヲ取ル權能アリ若シ土地法ガ米國憲法違反ナル場合ニハ之ガ執行ニ對シテハ equity ニ依ルニアラザレバ實際のニシテ十分ナル救済ヲ受クルコト不可能ナリト原告人ハ remedy at law ヲ得ル為實際州法違反ノ契約ヲ締結シ以テ刑罰ト財産上ノ損失ヲ蒙ルル危險ヲ冒サザル可カラザル理由モナシ

第二 土地法ハ憲法補則第十四條ノ due process clause 又ハ equal protection clause ニ抵触セズ同補則ハ州ノ專斷的又ハ不當ナル差別的処置ニ對シ土地所有者ガ適法ノ目的ノため其土地ヲ処分スル權利及居住外國人ガ普通ノ職業ニ

従事シ生計ヲ営ム權利ヲ保護スルモ右ハ憲法採用當時留保サレタル警察權ヲ州ヨリ奪フモノニアラズ州ハ此權能ヲ行フニ當リ広キ裁量ノ自由ヲ有ス米國議會ガ移民歸化及固有財産ノ処分ニ関シ專權ヲ有スルト等シク州ハ條約ニ反對ノ規定ナキ限り外國人ニ對シ土地所有權ヲ拒否スル權利ヲ有ス而シテ凡テノ aliens ニ對シ平等ニ適用セラルル土地所有禁止ノ州法ハ自由又ハ財産ノ理由ナキ剝奪又ハ due process clause 違反トシテ得ズ又 equal protection clause ハ各人ニ對シ同様ノ狀況ノ下ニ於テ權利ノ享有ニ関シ平等ノ保護ヲ保證セルモノナルモ州法ニ依リ市民ト外國人トヲ區別スルコトヲ一律ニ禁ズルモノニアラズ市民ト外國人又外國人中ニテモ歸化宣言者ト然ラザル者トノ間ニハ權利義務ノ差異アリ善意ノ歸化宣言者ハ歸化不能ノ外國人又ハ歸化シ得ルモ其意志ヲ宣言セザルモノト明カニ性質ヲ異ニス土地法ガ善意ノ歸化宣言者ヲ市民ト同様ニ取扱フハ歸化不能者又ハ歸化シ得ルモ其意志ヲ宣言セザル外國人ニ對シ不當ナル差別ヲ為スモノニアラズ右差別ノ標準ハ歸化權及歸化ノ志望ニアル処米國議會ハ任意ニ歸化權ヲ付与シ又ハ禁止スルコトヲ得而シテ州ハ議會ノ定メタル區別ハ當然合理

的ト解シ得ベシ州法ガ中塚其他ノ歸化權ナキ外國人ニ對シ人種又ハ皮膚ノ色ニ基キ勝手ニ差別待遇ヲナシタリトスル主張ハ根拠ナシ土地法ハ善意ニ市民トナル意志ヲ宣言セザル者ハ其色又ハ人種ノ如何ヲ問ハズ凡テ土地ノ所有ヲ禁ズルモノニシテ歸化ニ関シ米國議會ノ定メタル法則ハ自ラ該州法ノ規定ニ對シ妥當ナル根拠ヲ与フルモノナリ市民ニアラズ又市民トナリ得ザル者ハ州ノ福祉ノ為有効ニ働ク利害モ權能モナキガ故ニ州ハ彼等ニ對シ土地所有及借地ヲ禁ズルヲ得ベク歸化シ得ルモ其意志ヲ宣言セザル外國人及歸化權ナキ外國人ヲ同一禁止部類ニ入ルルハ明カニ州ノ權内ニアリ Truax v. Raich 事件ニ於テ本法院ハ「アリゾナ」州法ヲ憲法補則第十四條違反ト判決シタルガ右ハ通常ノ職業ニ従事シ生計ヲ営ムコトニ関スルモノニシテ本事件ハ之ト異リ州内ニ於テ農地ヲ所有シ管理スル特權ニ関ス農地ヲ所有占有使用スルモノノ性質及忠誠ハ最有用ノ事項ニシテ州ノ安寧及權利ニ影響スルモノナリ市民タル Terraces ハ適法ナル禁令ニ反シ土地ヲ外國人ニ賃貸スル為憲法補則第十四條ノ保証スル權利ヲ有ス可キモノニアラズ

第三 土地法ハ日米條約ニ抵触スルモノニアラズ條約前文

ハ「通商航海條約」ト稱シ兩國間ノ通商關係ヲ律スル為締結セラレタルコトヲ指示セリ土地ノ所有賃借ニ関スル唯一ノ規定ハ第一條第一項ナルガ中塚ハ農民タル外ニ自己ノ作物ノ販売ニ従事スル者ニシテ借地ヲ禁止セラルルニ於テハ條約上ノ權利タル商業及之ニ付帶スル行為ヲ為スコトヲ妨ゲラルルコトナルト主張スルモ各州ハ條約ニ反對ノ規定ナキ場合外國人ニ對シ土地所有ヲ禁止スル法律ヲ制定スルコトヲ得土地ヲ所有賃借スル權利ガ條約ニ依リ与ヘラレザル限り條約抵触問題ハ起リ得ズ條約ニハ裔ニ日本人ニ對シ農業上ノ目的ノ為ニ土地ヲ所有賃借スル權利ヲ与フル規定ナキノミナラズ條約成立ノ事情ヨリ見ルモ日米孰レモ他ノ一方ノ領土内ニ在ル自國民ニ對スル該權利ヲ條約ニ依リ与フルコトヲ差控ヘル主旨ナリシコト明カナリ

右第一項ノ字句ハ農業ノ目的ノ為土地ヲ所有シ賃借シ又ハ土地ニ對スル何等ノ title 又ハ interest ヲ有スル權利ヲ含ムモノト解スルヲ得ズ蓋シ他ノ特定目的ノ為土地ヲ所有賃借シ得ルコトヲ列記のニ規定セルハ即チ自ラ農業ノ目的ノ為土地ヲ所有又ハ賃借スル權利ヲ除外スルモノナリ條約締結ノ事情ニ就テ見ルモ千九百十三年七月十六日「ブライア

ン」ヨリ珍田伯宛書翰ハ土地所有權ハ日本ノ希望ニ依リテ与ヘラレザリシコトヲ示セリ又始メ條約草案ニ「住居商業工業其他適法ナル目的ノ為土地ヲ賃借」シ得ル旨規定シアリタルヲ「住居及商業ノ目的ノ為」ト改メタルハ即チ其他ノ目的ノ為ニスル借地權ヲ特ニ除外シタルモノト云フベシ第四 土地法ハ州憲法第二章第三十三節ニ抵触スルモノニアラズ

同節ハ外國人ノ土地所有ヲ禁ズル旨規定セルガ故ニ州法ヲ以テ借地ヲ禁ズルハ不法ナリトノ原告ノ主張ハ容認スルヲ得ズ同州法ガ憲法ノ規定ニ反スルモノニアラザルコトハ既ニ州高等法院ノ判決セル所ナリ州法ガ憲法ニ反スルヤ否ヤノ問題ハ州最高裁判所ノ決定ニ依リテ定マル

「マクレーノルズ」及「ブランドイス」兩判事ハ本事件ニハ justiciable question ナキヲ以テ却下サルベキモノナリトノ意見ナリ

「サザーランド」判事ハ本事件ノ審理判決ニ加ハラズ桑港沙港ニ転電シ桑港ヲシテ「ホノルル」ヲ含ム他ノ沿岸各領事ニ転電セシメタリ

有スルヲ得スト云フニ在リ委細後報ス  
桑港ヘ転電シ沿岸各領事ヘ転電セシム

四九 十一月二十二日 伊集院外務大臣ヨリ  
在桑港大山總領事宛(電報)

米國大審院ノ借地權及ビ收穫契約ニ関スル判  
決ニ対スル本邦新聞論調通報ノ件

第三三二号

米國大審院ノ借地權及收穫契約ニ関スル判決ニ関スル新聞論調(殊ニ強硬ナル部分)左ノ如シ

二十二日報知、政府当局ハ收穫契約ニハ少ナカラサル望ヲ囑シテ居タカ今回ノ判決テ愈万策尽キタ此ノ上ハ外交手段ニ拠ルノ外ナイ日本政府ハ尚且日米協調政策ニ因ハレテ在米農民五万人ヲ絶望ノ淵ヨリ救ハントハシナイノカ

二十二日万朝、米國ハ一方一千万弗以上ノ義捐ヲ募集シテ深厚ナル同情ヲ表シツツ他方日本人ヲ仇敵ノ如ク取扱ツテ居ル、広闊ナル米國ノ地ニ同胞ヲ歡迎シテ呉レルナラ一文ノ義捐金ヲ呉レナクトモ友國トシテ感謝スルカ入國ヲ拒ンテ見舞金ヲ呉レタツテ有リ難クナイ

二十一日中外、今回ノ判決ハ法ヲ狭ク解釈スレハ失当テナ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 四九 五〇

四七 十一月二十日 在米國填原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

收穫契約及ビ土地会社ノ株式取得ニ関スル二  
訴訟米國大審院ニテ邦人側敗訴トナリタル件

第七六六号 (十一月二十二日接受)

十一月十九日大審院ノ判決ニ依リ收穫契約及株式会社ノ二件何レモ邦人側ノ敗訴ニ決セリ

不取敢

桑港ニ転電シ沿岸各領事ヘ転電セシメタリ

四八 十一月二十日 在米國填原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

收穫契約及ビ土地会社ノ株式取得ニ関スル邦  
人側敗訴理由要点報告ノ件

第七六七号 (十一月二十二日接受)

往電第七六六号ノ判決ハ Butler 判事ニ依リテ下サレタルカ其ノ理由ノ要点ハ收穫契約ハ單ナル勞務契約ニ非ス實質上借地ト異ラサルカ故ニ帰化不能ノ外國人ニ依ル右契約ハ無効ナリ次ニ土地ヲ所有スル会社ノ株ヲ所有スルコトハ即チ土地ノ所有トナルカ故ニ帰化不能ノ外國人ハ右株式ヲ所

イカモ知レヌカ大審院ハ土地法ノ根本觀念カ全ク人種の偏見ニ基イテ制定セラレタモノト知り且其ノ沿革歴史ヲ参酌シタラ今少シ自由ナ広義ノ解釈ヲシテモカラウ吾人ハ米人ノ歴史のニ高唱シテ居ル正義人道ノ見地カラ遺憾トスルモノナ

二十一日國民、震災ニ際シテ寄セタ米國ノ同情ハ感謝スル又今後モ物資供給外債ノ募集ニモ米國ノ援助ニ依ラネハナラヌカ判決ニ対シ抗議モ言ハス不平モ述ヘス温情ノ為ニ國家百年ノ大計ヲ誤リ在米十萬ノ同胞ヲ見殺シニスルコトハ忍ビナイ此際國民ハ總ツテ反對スルコトカ國民外交ノ要諦テアル此ノ問題ノ結局ノ解決ハ帰化權ノ獲得テアラネハナラヌ

在米大使、在シアトル、ロスアンゼルス領事ニ転電シ紐育、シカゴ、ニューオルレアンズニ郵報アリタシ

五〇 十一月二十三日 在米國填原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

土地会社ノ株式所有問題ニ関スル米國大審院  
判決ノ趣旨報告ノ件

第七七九号 (十一月二十五日接受)

土地会社ノ株式所有問題ニ関スル大審院判決ハ先ヅ事件ノ要領ヲ示シ「ウェップ」及「オブライエン」事件ニ対スル判決ヲ引用シ土地法ハ憲法及條約違反ニアラズトナシ次ニ左ノ趣旨ヲ述ベタリ

日米條約ハ對手國臣民ガ農業ノ目的ノ為土地ヲ所有賃借使用シ又ハ土地ノ利益ヲ享有スルコトヲ相互ニ許可シ居ラズ而シテ土地法第三篇ノ規定ハ一般のニ都テノ帰化不能外國人ノ農地ニ対スル特權ヲ條約規定ノ範圍内ニ限レリ州ハ帰化不能ノ外國人ニ対シ農業ノ目的ノ為土地ヲ所有賃借使用シ又ハ土地ノ利益ヲ享有スルコトヲ禁ズル權能ヲ有シコノ權能ヲ確實ニ行使スル為適當又ハ必要ナル手段ヲ執リ帰化不能外國人ガ農地ヲ直接又ハ間接ニ所有又ハ支配スルコトヲ禁ズルハ條約ニ規定セル「商業ヲ営ム」權利ハ土地会社ノ株式ヲ取得スル特權ヲ与フルモノニアラズ條約ガ右特權ヲ与フルモノト解スルハ締約國ノ意思及目的ニ反スルモノト謂フベシ「マクレイノルズ」及「ブランドイス」兩判事ハ本件ハ「ジャスチースエーブル、クエッション」存在セザルヲ以テ棄却スベキモノナリトノ意見ナリ「サザランド」判事ハ本件審理判決ニ与ラズ

## ノ件

第七八一号

(十一月二十六日接受)

收穫契約ニ関スル大審院判決ハ先ヅ事件ノ経過及邦人側主張ノ要領ヲ示シ左ノ趣旨ヲ論述セリ

一、Obrien ハ井上カ法律ニ依リ許サレサル限り同人ト本件契約ヲ結フノ權利ナク普通法上外國人ハ法規ニ依リ土地取得ヲ認メラレ居ラサル場合ニモ当事者間ノ契約ニ依リ之ヲ取得シ得ヘキモ州ノ意思ニ反シテ之ヲ保持スル能力無シ州ハ條約ニ反對ノ規定ナキ限り土地所有權ヲ外國人ニ対シ拒否スルノ權能ヲ有シ而シテ州カ帰化不能外國人ノ不動産若クハ不動産ニ関スル利益ヲ取得スル特權ヲ條約規定ノ範圍ニ制限スルコトハ憲法補足第十四ニ関スルモノニ非ス而シテ日米條約ハ敢テ帝國臣民ニ対シ農業ノ目的ノ為土地ヲ取得保持又ハ收益スルノ權利ヲ与ヘ居ラスト論シ

二、次ニ本件收穫契約ノ内容ヲ述ヘ仮リニ右契約ハ不動産ノ賃借若クハ不動産ニ関スル利益ノ移轉ヲ来スモノニ非ス且右契約ハ雇傭契約ノ要素ヲ含ムモノト仮定スルモ該契約ハ単ニ雇傭契約ニ止マラス若シ該契約ヲ実行セハ井上ハ之ニ依リ農業ノ目的ノ為土地ヲ使用シ且土地ノ利益ヲ享有シ

桑港ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転電セシメタリ

五一 十一月二十四日

伊集院外務大臣ヨリ  
在桑港大山総領事宛(電報)

米國大審院ノ土地法關係諸判決ノ影響査報方

訓令ノ件

合第三三四号

土地法諸判決ノ影響ハ特ニ当方ニ於テ知ラムトスルコロナルニ付テハ在留民ノ態度其ノ将来ニ対スル計画等概略隨時電報詳細公信ヲ以テ報告アリタシ前途ニ関スル的確ナル觀測ハ今暫ク時日ノ経過ヲ待チ且計數的材料ヲ蒐集シタル後ニアラサレハ困難ナルヘキモ判決直後一般ノ情勢不取敢承知シ度判決直接ノ影響ヲ示スヘキ統計概數ナリトモ併セ一応電報アリタシ

沿岸各領事ハ転電シ参考ノ為大使及ホノルル其ノ他ノ領事ヘ転電アリタシ

五二 十一月二十四日

在米國填原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

收穫契約ニ関スル米國大審院判決ノ趣旨報告

若クハ其分配ニ与ルノ權利ヲ取得スルニ至ルヘシ右ハ契約上土地ノ所有ハ地主ニ存シ收穫者ハ土地ニ対シ何等權利利益ヲ有セス收穫ノ一半ハ勞力ニ対スル報酬トシテ收穫後ヘ運搬前ニ与ヘラルルモノトセル事實如何ニ拘ラストナシ

三、次ニ日米條約第一条第一項ノ字句ヲ引用シ該條約ハ農業外目的ノ為土地ヲ享有使用シ又ハ土地ノ利益ヲ享有スルコトヲ許容シ居リ他方加州土地法ノ与フル特權ハ條約ノ範圍内ニ限ラレ要スルニ帰化不能ノ外國人ニ対シ農業ノ目的ノ為ニスル土地ノ使用收益ヲ禁セントスルニアリトナシ

四、再ヒ收穫契約ノ性質論ニ入り該契約ノ期限土地支配ノ方法收穫者及其使用土地上ニ住居ヲ構フルノ權利及收穫者ノ土地耕作ニ対スル唯一ノ取得トシテ收益ノ一半ヲ取得セシムルノ事實ハ本件契約カ単ナル雇傭契約ニ止マラサルコトヲ明瞭ニ示スモノナリトテ本件カ「アリゾナ」州Trixax 对 Raich 事件ト異ル所以ヲ述ヘタル後收穫契約ヲ締結シ実行スルノ權利ハ合衆國憲法カ帰化不能ノ外國人ニ対シ保障シ居ラサル所ナリト断シ続イテ右保障ノ拒否ハ決シテ生計ヲ立ツル為ノ通常ノ方法若クハ生計ヲ得ル為ニ勞働スルノ權利ヲ剝奪スルモノニ非ス本件ノ如キ契約ハ事實ニ於テ

農業ノ目的ノ為土地ヲ賃借スルト扱フ所ナキ土地ノ使用支配及利益カ収獲者ニアルコトニ帰着スルモノニシテ結局該契約ノ利用ニ依リ農地ニ居住シ耕作ニ従事スルモノノ大部分ハ帰化不能ノ外国人ヲ以テ構成セラルルニ至ルコトアルヘキヲ思ハシム而シテ農業者ノ州ニ對スル忠誠ハ直接州ノ実力及安寧ニ関スル所ニシテ帰化不能外国人ニ對シ農地ノ右ノ如キ利用ヲ禁止スルハ州ノ権限内ニ屬スト認ムト論シ五、最後ニ岡倉事件ニ對スル加州高等法院ノ判決ハ井上ノ主張ニ有利ノ支持ヲ与フルモノニ非ストテ今回ノ事件ニ付テハ前者ニ於ケルカ如ク當該契約カ不動産ニ關スル利益ノ移転トナルヤ否ヤヲ判定スルノ要ナク又事件ノ要点ハ當該契約カ加州土地法第十条ニ依リ禁止セラレ居ルモノナルヤ否ヤニ非スシテ井上等ハ憲法上若クハ條約上該契約ヲ締結実行スルノ權利ヲ有シ且米國官憲ニ對スル injunction ヲ受クル資格アルコトヲ論証セリヤ否ヤノ点ニ存ス之ニ對シ否定ヲ以テ答フルノ外ナシト論斷シ

六、McReynolds 及 Brandeis 兩判事ハ本訴訟事件ニハ何等 justiciable question 含マレサルヲ以テ却下スヘキモノナリト思惟スル旨及 Sutherland 判事ハ本件審理及判決ニ參

ル所ハ(一)現ニ存続中ノ「リース」ノ三分ノ一ハ本年中満了トナル処其ノ後ハ今次判決ノ結果司法ノ手ノ及ハンコトヲ虞レ法ヲ潜ツテ迄モ日本人ニ土地ヲ貸ス者ナキニ至ルヘキコト(二)農業經營者ヨリ農業労働者及鐵道若クハ製材所労働者等ニ転業スヘク土地(未成年者ノ名義ニテ所持スルモノ)農具牛馬(当地ニハ目下農業ニテ衣食スル邦人多シ)ヲ処分セントスルモ邦人ノ弱目ニ付込ム白人ハ相當ノ値段ニテハ買取ラサルヘク多年ノ投資空ニ帰スヘキコト(三)一家ヲ構ヘ妻子ヲ有スル者カ普通労働ニ転業スルハ非常ナル苦痛ナルコト等ナリ

右ニ関シ過日ハ当地有力邦人ノ会合アリ十一月二十三日ニハ當領事館管下ニ於ケル日本人会會長會議アリ善後策ヲ議シタルモ地方限リニテハ何トモ致シ難ク唯確實ナル白人ヲシテ農業会社ヲ組織セシメ有利ナル条件ノ下ニ其ノ内ニテ労働ニ従事スルコト(但シ農業会社ハ勘定ニ合ハサルヲ以テ實現容易ナラサル趣)及此地ニ於テ各種労働者ニ転業シ將來条約締結セラレ若クハ米國出生児カ成長スル時ヲ待ツコト日本人会ニテ職業紹介ノ勞ヲ執ルコト等ノ外途ナシト謂フニ帰着シ地方農民ハ勿論彼等ニ依リテ衣食スル一部邦

加セサリシ旨ヲ記載セリ  
桑港ヨリ沿岸各領事及「ホノルル」ヘ転電セシメタリ

五三 十一月二十五日 在シアトル大橋領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

土地法ニ關スル米國大審院判決ニ依リ窮況ニ  
在ル在留邦人ヲ法律的二救フ為条約締結ノ急  
務ナル所以ヲ在米大使ヘ進言ノ件

第一六二号 (十一月二十七日接受)

本官宛在米大使宛第一二四号

一、土地法判決以來當地方邦人農民中白人ヲ後見人トシ米國出生未成年者ノ名義ニテ土地ヲ買受ケ自ラ使用收益シ居ル者「リース」満了後口約ニテ引續キ土地ヲ耕作收益シ「レント」ヲ支払居ル者又ハ他人ノ「リース」ヲ買収シテ耕作スル等土地法ヲ evade シ居ル者ハ何レモ今次判決ト共ニ郡檢事ノ摘発ニ遭フヘキヲ怖レタル矢先往電第一二二号(大臣宛往電第一五九号)報告ノ如キ政治的野心ヲ包藏スル檢事代理ノ声明ヲ聞キ益戰々兢々タル有様ナリ現ニ「ベルビュウ」地方ニテハ白人地主中恐怖ノ余リ日本人即時立退ヲ迫リタル者数名ニ及フ由ナリ日本人ノ最苦痛トス

人ノ心情実ニ同情スヘキモノアリ本官トシテモ何等施ス術ナク唯彼等カ落胆シテ昏迷スルヲ防カンカ為各地ニ於テ宴會ヲ催シ排日ノ永久のナルモノニアラサルコト排斥サルルモ当地ニ優ル所ナキコト其ノ内米國出生児成長スヘク又条約締結ヲ見ル時機アルヘキニ付此際隱忍自重シテ危機ヲ切抜ケ進ンテ米人トノ社交的經濟的提携ヲ促進シ排日立法ノ廃止ノ氣運ヲ作ルヘキコト等ヲ説述シ居レリ中ニハ日本人ニシテ農園ヲ去ルニハ農産物牛乳等ノ價格騰貴シ直接市民ニ不利不便ヲ齎シ排日法廃止ノ運動起ルヘント唱フル者アルモ右ハ日本人ノ力ヲ買被リタル説ニテ多ク恃ミトスルニ足ラス

二、思フニ日本カ北米發展ヲ見限ラサル以上日夜白人ト接觸スル地方日本人カ之ト社交的經濟的提携ヲ行ヒ一般米人ノ感情ヲ融和スルコト必要ニシテ之カ根本の方策タルコト勿論ナリト雖モ日本人カ今日ノ如ク法律のニハ極度ノ圧迫ヲ蒙ムル一方米國出生児ハ未タ多ク丁年ニ達セスシテ經濟的社会的ニ窮境ノドン底ニアル際之ニ向ツテ生活ヲ改善シ米人ト提携セヨト叫フモ効果ハ極メテ微弱タルヲ免レス從ツテ同胞ニ法律的安住ノ地ヲ与フルコト先ツ必要ナル処各

種試訴ノ失敗シタル今日日本人ヲ法律的二救フ途ハ唯条約締結アルノミ条約締結ニ付日本カ日本人ニ対シ他外国人ト同様權利ヲ主張シ且排日ノ本拠タル西部諸州ノ中央ニ於ケル政治的勢力益々強盛ナラントスル際米國政府カ条約商議ヲ喜ハサルハ云フ迄モナク殊ニ大統領選挙ヲ明年ニ控ヘ且共和党保守派漸ク敗勢ニ向ハントスル時尚更然リト云フヘキモサリトテ日本トシテ此儘条約商議ノ好機ヲ伺フモ果シテ右好機来ノ時アリヤ大ナル疑問ナリ第一ノ好機ト目スヘキハ一般米人カ日本人ヲ良ク諒解シ人種の僻見經濟的嫉妬ノ念ヲ一擲スヘキ時ナリト雖モ斯ノ如キハ容易ニ期待シ得ヘカラス今次震災ニ依リ当國ノ感情幾分緩和シタルコトハ事實ナルヘキモ右ハ単ニ一時的感情の同情タルニ止マリ今後時日ノ経過ト共ニ力ヲ失ヒ日本國力ヲ回復スヘキ曉ニハ元ノ木阿弥トナルヘキコト必定ナリ第二ニ米國カ内外重大ナル危機ニ瀕シ日本ト抗争スルコトヲ欲セサル時機ニアルヘキモ之又目下ノ処絶望第三ニハ西部各州ノ勢力失墜スヘキ時ナルモ西部ハ現ニ旭日ノ勢アルノミナラス今後益々優勢トナラントシ此望モ無シ即チ一般的形勢ハ待テハ待ツ程我ニ不利ナル傾アリ仮ニ明年大統領選挙後迄待ツトスルモ

西部ノ勢力ニシテ今日ト変ラサル以上何レノ党派カ政權ヲ握ルモ敢テ西部諸州州法ヲ「ローバールール」スルカ如キ条約交渉ヲ喜フカ如キコト万ナカルヘク殊ニ旧保派ニテモ政權ヲ握ラハ其反对派カ彼等ヲ圧倒スルニ至ルヘキ時迄何事モ望ナキニ至ルヘシ故ニ本官ハ今交渉シテ成功ノ望ナシトスルモ震災ニ依リ一時的ニテモ同情ノ濃厚ナル此際理ニ依リ正ヲ踏ミ断然本件ヲ *Push* スルコト得策ナラスヤト思考ス殊ニ今回ノ判決ニ依リ日米条約カ確定的ニ無視セラレタル点アリ此儘之ヲ默視センカ一時ニテモ之ヲ承認シタル形トナリ排日家モ之ヲ既定事實ト認メ右事實ヲ土台トシテ更ニ帰化權ナキ親ヨリ生レタル子ノ市民權ヲ否認スヘキ憲法改正運動ヲ具体化スヘキ氣配アリ更ニ次期議會ニハ日本人入國禁止法ノ通過スヘキ惧アリ旁此際条約交渉ハ極メテ必要ト存ス今斯ノ如キ交渉ヲ開クハ一見震災ニ依リ「インプループ」サレタル日米國交ヲ毀損スルカ如キ觀アルモ今次米國ノ同情ハ前陳ノ如ク之丈ニテハ永續性ニ乏シキノミナラス日本カ從來本件ニ関シ執リ来リタル立場ニハ毫末ノ無理ナキコトハ一般ノ認ムル所且震災後國內失職者ニ苦シミ此上在米邦人ヲ入ルル余地ナキ此際大審院判決ヲ機會ト

シテ強ク主張スルモ何等惡感ヲ起ササルノミカ識者ハ却ツテ我ニ同情スヘシ又震災後日本ノ國力ヲ以テシテハ本件外交交渉ヲ *Back* シ得サル如キモ日本ノ現状ヲ以テ如何ニ強硬ナル態度ヲ執ルモ排日家ニ我侵略の意圖ヲ宣伝スル機會ヲ与フルコトナク此点却ツテ我ニ有利ナラスヤト思考ス右諸点ニ関シ閣下ノ御賢慮ヲ煩ス次第ナリ在米大使ヘ転電シ紐育、桑港、ポートランド、シアトル、ホノルル、ロスアンゼルスヘ暗送セリ

五四 十一月二十六日 伊集院外務大臣ヨリ  
在米國植原大使宛(電報)

土地法ニ関スル米國大審院判決ノ結果在留日本人ノ蒙ルベキ困難ニ対シ適當ノ方策ヲ講ズル様國務長官ニ要請方訓令ノ件

別電 同日伊集院外務大臣宛在米國植原大使宛電報第  
六五九号 同右

第六六〇号

土地法ニ関スル大審院今回ノ諸判決ハ前年来ノ排日立法ヲ違法ナラストナシ過般ノ帰化權判決ト相俟チ在米日本人ノ

地位ヲ甚シク毀損スルニ至レリ該判決影響ノ程度並在留民今後ノ方針ニ関シテハ之カ正確ナル觀測ヲナスコト仮スニ日ヲ以テセサルヘカラサルモ農業ヲ以テ其主タル生業トナセル太平洋沿岸在留邦人ノ生活カ之カ為ニ甚大ナル打撃ヲ被ルニ至レルノ一事ハ之ヲ否認スルヲ得サルナリ而シテ大審院判決ノ為ニ正当ニ入國居住ヲ許サレ地方産業ノ發展ニ少カラス貢獻シタルニ拘ラス多数日本農業者ハ州法適用ノ結果トハ云ヘ俄然頗ル困難ナル地位ニ陥レラルルノ窮境ヲ現出シ又土地法ヲ有スル州内排日論者ハ其贏チ得タル勝利ニ乗シ更ニ峻嚴ナル立法ヲ以テ我在留民ヲ苦シメ若ハ從來此種立法ヲ有セサリシ州ニ於テモ日本人ノ在ルトコロ同様ノ制度ヲ設ケントスルニ至ルノ虞アリ上記ノ実情並危惧ニ対シテハ此際米國政府深甚ノ注意ヲ喚起シ其好意的考量ヲ切實ニ求ムルコト帝國政府当然ノ義務ト思考ス付テハ貴官ハ速ニ國務長官ニ面会セラレ日本政府ノ加州其他ニ於ケル排外土地立法ニ対スル意見主張ハ予テ次ヲ累ネテ米國政府ニ之ヲ致シ合衆國政府ニ於テ十分諒得シ居ルトコロ帝國政府ハ常ニ兩國間ニ存スル親善ナル伝統的關係ノ維持ニ忠ナラント期シ將又兩國ノ名譽及真正ノ利益ニ合致セル解決

到達ヲ庶幾シ隱忍局ニ当リ居リタル次第ナリ右ノ事實ハ合衆國政府ノ夙ニ知悉スルトコロナルニ付テハ今回ノ判決カ我在留民ニ齎スヘキ重大ナル影響ニ付テモ亦同政府ニ於テ已ニ明瞭ニ認識サレ居ルコト容疑ノ余地ナク思考セラルル旨ヲ適宜敷衍説述シ加州土地法制定以來米國政府ニ對シ屢次表明シタル差別的土地法ニ對スル抗議ハ引續キ帝國政府ニ於テ之ヲ維持スルモノナルト同時ニ米國政府ニ對シ今回判決ノ結果關係諸州ニ於テ日本人ノ蒙ルヘキ苦痛ヲ除却シ又今後新ニ在留民ノ地位ヲ愈危殆ナラシムルカ如キ何等手段ノ執ララルコトナキ様米國當局ニ於テ適當ノ方策ヲ講セシカ為特別ノ考量ヲ払ヒ將又他州ニ於テ同様ノ風潮ヲ激成スルコトナキ様必要ノ阻止ヲ防ニ吝ナラサランコトヲ求ムルハ帝國政府妥當ノ要請ニシテ近時殊ニ國交親善ノ關係ヲ密ニセルヲ欣ヒ且愈其度ヲ深カラシメントスルニ甚大ノ努力ヲ尽シツアルコト最近ノ事蹟ニ徴シテ明確ナル米國政府トシテモ右申出ヲ諒トシ之ニ對シ迅速且適當ノ配慮ヲナスニ躊躇セサルヘク我方ニ於テ確信期待スル旨ヲ告ケ尚貴官熟知ノ太平洋岸日本人ノ実情ニ関シテハ需ニ応シ貴官ヨリ説明開示スヘキニ付國務長官ニ於テモ救済ノ方法ニ関シ

官ノ応待振報告アリタシ本件善後ノ策ニ付テハ米國政府ニ於テモ其ノ案出ニ苦ムヘク結局國務長官ヨリ何等有利有効ナル返答ヲ得ルコト困難ナルヘク予想セラルルモ不取敢米國政府ノ注意ヲ喚起シ我方ノ不滿ヲ明示シ置クコト諸般ノ事情ニ顧ミ必要ト認メラルルニ付訓電ニ及フ次第ナリ右ノ趣旨ヲ酌マレ可然措置セラルル様致シタシ  
右關係領事ヘ転電アリタシ

五五 十一月二十六日 伊集院外務大臣ヨリ  
在桑港大山總領事宛 (電報)

土地法關係諸判決ニ関シ在留邦人ノ輕率妄動ヲ阻止方訓令ノ件

第九五号

土地法關係諸判決ノ遂ニ我方ノ不利ニ終レルハ政府ノ遺憾トスルトコロニシテ在留民ノ被ルヘキ打撃ハ頗ル之ヲ諒トスヘキモノナルトコロ本件善後ノ措置ハ四囲ノ事情ニ鑑ミ極メテ慎重冷静ニ之ヲ処理スルノ要アルコト云フ迄モ無キ義ナリ就テハ管下在留民ニシテ窮余輕率ニ出テ何等救済ヲ講セムトシテ却テ事態ヲ更ニ錯雜ナラシムルモノアリ為ニ漫ニ反米ノ氣運ヲ誘起スルカ如キノ結果ヲ齎スハ極力之ヲ

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 五五 五六

率直ニ協議シ迅速ニ尽力センコトヲ望ム旨並右ノ措置ニヨリ茲ニ何等方策ヲ案出シ人心ノ望マシカラサル興奮ヲ避クルハ兩國當局ノ齊シク努メサルヘカラサルトコロナルヲ確信スル旨ヲ添言シ特ニ日本人ヲ差別的ニ待遇スルノ制度ハ日本人トシテ看過シ得ルトコロニ非ス之カ撤廃ヲ求ムルハ我國ノ輿論ニシテ差別的待遇現存スル限り國民ノ感情ハ常ニ之カ為ニ刺激サレ近時特ニ其親善ノ度ヲ加ヘツツアル日米國交ニ累ヲ及ホスコト必然ト思考セラレ帝國政府ハ最之ヲ遺憾トスル趣ヲ力説シ置カレタシ  
右關係領事ヘ転電アリタシ

(別電)

十一月二十六日伊集院外務大臣宛在米國埴原大使宛電報第六五九号

第六五九号

往電第六六〇号ニ関シ

本件今後ノ方針ニ関シテハ當方ニ於テ篤ト審議ヲ遂ケタキ所存ナリ因テ貴官ニ於テモ貴方実狀ニ顧ミ意見提出アリタク右決定前差向キ米國當局ニ對シテハ前記往電ノ趣旨ニ由リ適宜覚書ヲ作成シ我要請ヲ申入レラレ右ニ對スル國務長

阻止セサルヘカラサルニ付貴官ハ一般在留民ヲ可然指導セラレ尚地方邦人団体及有力者ヲシテ右ノ趣旨ヲ諒解セシムル様必要ノ措置ヲ執ラレタシ  
右本大臣訓令トシテ沿岸各領事ヘ転電シ大使及ホノルル其ノ他ノ領事ヘ参考ノ為転電アリタシ

五六 十二月五日 在米國埴原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛 (電報)

土地法ニ関スル米國大審院判決ノ結果在留邦人ノ蒙ルベキ困難ニ関シ日本側ノ要請ヲ國務長官ニ申入レノ件

第八〇五号

(十二月七日接受)

貴電第六五九号及第六六〇号ニ関シ十二月四日國務長官ニ面会予ハ太平洋沿岸諸州ノ法律ニ依リ与ヘラレタル日本臣民待遇問題ニ関シ米國政府ニ申入レヲ為スベク本國政府ノ訓令ニ接セリ予自身トシテハ長官ト全然非公式ニ而モ隔意ナク充分ニ本問題討議ノ機会ヲ得ル迄ハ公式ニ之ガ談判開始ヲ余儀無クセラレザランコトヲ希ヒタルモ我政府トシテハ最近米國大審院ノ判決ニ顧ミ又問題ノ性質ガ之ニ手ヲ触レズシテ置ケバ自然ニ解決ノ途有ルベシトスベキ何等ノ見

込モ無キニ照シ此際沈黙ヲ繼續スル能ハザル立場ニ在ルハ諒解ニ難カラズ我方トシテハ本問題ハ其ノ実益の方面以外更ニ「ナショナル、サセブチビリチー」ヲ包含スル問題ニシテ我國民ガ之ニ重キヲ置クハ蓋シ当然ノ事ナリト思考スト述ベ貴電訓令ノ趣旨ヲ本件從來交渉ノ經過ト參酌シ適宜作製シタル覚書ヲ手交シ長官ニ於テ之ニ好意の考量ヲ加ヘ成ルベク速ニ何分ノ回答アラシコトヲ切望スル旨並予トシテハ長官ガ本申出デニ関シ何等結論ニ到達スル前ニ予ト非公式ニ腹藏無キ所見交換ノ機会ヲ作ラレンコトヲ希望スル旨懇請シタル処長官ハ始め頗ル迷惑相ノ面色ヲ現ハシタルガ忽チニシテ面容ヲ和ラゲ貴官（本使）ノ立場ハ自分（長官）ト先ヅ非公式ニ懇談ヲ遂ゲンコトヲ欲シタルモ既ニ政府ノ訓令ニ接シタル以上之ヲ執行スルノ義務ヲ有ストスルニ在リト了解ス本問題ニ関シ先ヅ貴官ト非公式ニ懇談ヲ遂グルハ自分ノ喜ブ所ナリ唯自分トシテハ從ラニ局面ヲ惡化セシムル様ノ事ハ努メテ之ヲ避ケント欲スルノミト述ベ大版數頁ニ亘ル全覚書ヲ閱讀シタル上何等感動シタル面色モナク只辭ヲ懇ニシ本件ヲ提起スルニ當リ貴官ノ示サレタル精神ハ之ヲ多トス自分モ同様ノ精神ヲ以テ篤ト本件申出デ

ヲ考量スベク尚何レ貴官ト非公式ニ会商ノ機会ヲ作ルコトニ努ムベシト述ベタルニ付本使ハ我政府ハ本問題ニ関シ徒ラニ「コントロバリーシャル、ムード」ニ居ルモノニ非ズニ長官ノ切実ナル好意の考量ヲ求ムルコトニ依リ本件ノ解決ヲ図ラントスル希望ヨリ今回ノ申出デヲ為スニ至リタルモノニシテ右解決ノ為長官ノ提出スルコトアルベキ如何ナル「サジェスチョン」ナリトモ之ヲ考量スルニ吝ナラザルベキハ本使ノ保障スル所ナル旨ヲ述ベテ別レタリ覚書郵送スニ在桑港總領事ニ転電シ「ホノルル」ヲ含ム沿岸各領事ニ転送セシム

五七 十二月五日 在桑港大山總領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛（電報）

米國大審院ノ土地法關係判決ノ在留邦人へ  
及ボセル影響ニ付報告ノ件

第二三三三號 （十二月七日接受）

貴電合第三三四號ニ関シ

土地法判決力在留民ニ對シ精神的而已ナラス物質的ニモ大打擊ヲ与ヘタルコトハ申ス迄モナキ儀ナルモ右判決中借地權ニ関シテハ最初ヨリ必勝ヲ期セス樂觀の諸説ニ對シテモ

半信半疑ノ状態ナリシヲ以テ本件敗訴ヲ遺憾トスルコトハ勿論ナルモ之カ為ニ甚タシク失望セス然リト雖取獲契約ニ付テハ曩ニ加州大審院ニ於テ勝訴ノ判決アリ又借地期限満了ト共ニ大多數ハ本契約ニ乗換ヘタル次第モアリ旁本件訴訟ノ必勝ヲ期シ之ニ依リ土地法上ノ一切ノ難ヲ解決シ得ヘシト確信シタル矢先ナルヲ以テ本件敗訴ノ一般在留民ニ与ヘタル失望ハ想像スルニ難カラス殊ニ該判決ノ精神ヨリ言ヘハ勞務契約ト雖其ノ實質形式共ニ純勞務契約ニアラサル限り決シテ安全ナラサルニ付既ニ勞働ノ域ヲ脱シ多年独立ノ事業ニ慣レ農具其ノ他ノ設備ニ多大ノ投資ヲ為シ家族ノ係累亦鮮カラサル在留民一般ノ現狀トシテハ其ノ窮狀真ニ同情ニ堪ヘサルモノアリ但シ其ノ損害高ニ付テハ今直ニ數字ヲ以テ示スコト困難ナルモ大正九年現行法実施ノ際ニ於テ當館管内本邦人借地面積約三十七萬英町ニシテ其ノ内本年内ニ満期トナルモノ約八萬英町ナルカ其ノ他ハ昨年末迄ニ満期トナリ其ノ都度收穫契約其ノ他ノ方法ニ依リ事業ヲ繼續シ来リ目下満期ノ迫ルモノヲ併セ總面積約三十萬英町是等ハ大審院今回ノ判決ニ依リ直接ノ影響ヲ受クヘキモノナリ

右ニ對スル善後策ハ在米日会ヲ始メ有力団ニ於テ目下慎重熟議中ナルカ差當リ  
一、大正九年ノ現行土地法ニ準拠シテ設立セラレ本邦人ノ經營ニ懸ル土地株式會社（日系米人カ株式ノ過半数ヲ所有ス）加州内ニ三百五十余アリ是等ノ會社ヲ通シテ農地ヲ賃借シ本邦人ヲ使用シテ耕作スルコト  
二、加州内ニ現存スル二十一才以上ノ米國出生青年約七百名ヲ介シテ農地ヲ賃借シ本邦人ヲシテ之ヲ經營セシムルコト

三、特ニ米國人ヲシテ借地會社ヲ組織セシメ各地方ノ農場ヲ賃借セシメ本邦人其ノ經營ニ當ルコト

四、可成純勞働ニ従事スル様奨励スルコト  
等ノ四方法ニ付審議シ居レルカ是等ノ方法ト雖其ノ契約ノ内容如何ニ依リ農地ニ對スル利益ヲ享有シ又ハ實質上農地ヲ支配スルコトナルトキハ大審院今回ノ判決ノ精神ニ抵触スルモノト解決セラルヘキニ依リ注意ヲ要スルコト勿論ナリ尚本件土地法諸判決ハ一方前記ノ如キ打擊ヲ在留民ニ与ヘタルカ他方米國一般ニ農産市場ノ不況甚タシク假令今回ノ判決ナシトスルモ本邦人ノ農業契約ノ方針トシテハ此

際出来ル丈緊縮ヲ要スル折柄動モスレハ財力不相応ノ契約ヲ為サムトスル本邦人ノ投機心ヲ抑制スルノ効果ナシトセス尚本土地法施行ニ対スル加州官憲ノ態度ハ不明ナルモ新聞報ニ依レハ右判決直後知事カ加州検事総長ト相前後シテ該法ノ施行方ヲ地方官吏ニ激励スル趣旨ノ訓令ヲ発シ州農事課ノ官吏ハ邦人農業労働ニ代ルヘキ白人労働ヲ中西部地方ヨリ移入セムトシ目下統計ヲ取リツツアル趣ナリ尚本件善後策ニ付管内各日本人会代表者ニ会見御電訓ノ趣旨ニ依リ行動ノ管不取敢御参考迄

在米大使へ転電シ沿岸各領事へ暗送セリ

五八 十二月六日 在米國埴原大使ヨリ  
伊集院外務大臣宛

本邦人移民待遇問題ニ関シ國務長官ニ手交セ

ル覚書写送付ノ件

付屬書 大正十二年十二月四日付在米國埴原大使ヨリ米  
國國務長官宛覚書写

付記 右覚書ノ和訳文

機密第一〇四号 (大正十三年一月八日接受)

大正十二年十二月六日

Laws of 1913 and 1920.

The position taken by the Japanese Government on this question, which unfortunately still remains unsolved, is well-known to the United States Government. (Vide the Japanese Ambassador's notes or memoranda to the Secretary of State dated respectively May 9, 1913, June 4, 1913, July 3, 1913, August 26, 1913 and January 3, 1921).

The recent decisions of the United States Supreme Court in *Porterfield v. Webb* and three other kindred cases, which upheld the validity of the laws of California as well as similar legislation of another State, together with the previous decision determining the non-eligibility of Japanese to United States citizenship, have afforded Japanese subjects resident in the United States no relief whatever, but have confirmed the rigorous limitations placed upon them in the enjoyment of those ordinary civil rights which are freely accorded to nationals of many other countries, even of those having no treaty

在米

特命全權大使 埴原 正直(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

貴電第六五九号及第六六〇号御訓令ニ基キ十二月四日邦人移民待遇問題ニ関スル覚書ヲ國務長官ニ手交致シタル次第ハ往電第八〇五号ヲ以テ及報告置候処右覚書写一通茲ニ及御送付候条御査閲相成度此段申進候也

(付屬書)

十二月十四日付在米國埴原大使ヨリ米國國務長官宛覚書写

JAPANESE EMBASSY

Washington

SUBSTANCE OF INSTRUCTIONS RECEIVED  
BY THE JAPANESE AMBASSADOR  
FROM HIS GOVERNMENT.

The question of the treatment of Japanese subjects lawfully resident in the United States has been the subject of repeated representations on the part of the Japanese Government to the Government of the United States, especially in regard to the California Alien Land

relations or engagements with the United States; a situation which is apparently without parallel in the history of modern commercial intercourse between friendly nations.

Although it would be premature to attempt an accurate estimate of the effect these decisions will have upon the actual interest of Japanese in the United States, or to speculate on the course these particular Japanese might choose to follow in the future, it is sufficiently evident, that, in view of the fact that no small portion of Japanese residents in the Pacific Coast States have hitherto been permitted to find their legitimate living in agriculture and in businesses closely connected therewith, these decisions will seriously affect the living of a great many of them. In spite of all that is and has been said against them, no impartial observer of the facts in the case would deny that these peaceful, law-abiding, energetic and thrifty people have, by their honest labor, contributed in a marked degree to the

development and prosperity of local industry. And yet they are made to suffer an unbearable hardship—unbearable because their immediate means of livelihood is jeopardized—in the name of the legislative freedom of the people of the community, whose welfare they have served so much to promote, simply because the exercise of such freedom is found technically defensible under the existing laws of the country.

Furthermore, if the matter were to be left without recourse to some remedial measure other than judicial, it is feared that the so-called anti-Japanese element in the States where its activity has hitherto been permitted to develop freely, will find in the decisions of the highest tribunal of the country encouragement to devise still further means of persecution against Japanese, and it is not unlikely that the sinister influence of such a movement would soon be extended to other States. Events in the political and legislative history of the Pacific Coast and neighboring States in the past few years will

furnish sufficient ground for such apprehension.

In these circumstances the Japanese Government feel constrained to call the most earnest attention of the Government of the United States to this matter and invite their friendly consideration of it with a view to some adjustment thereof, which shall be fair and satisfactory to both sides.

It would be needless to recall here the sincere desire and earnest effort of the Japanese Government and people to preserve and draw still closer by all means the important and happy relations of traditional friendship and good neighborhood with the American Government and people. Nothing would be sadder and more disappointing to the Government and people of Japan than to discover a serious difference with their esteemed and trusted friends across the Pacific. That the Japanese Government and people are fully determined to exhaust all just and honorable means to reach a fair and rational solution of the question which has unhap-

pily been pending between the two countries for some years, is sufficiently demonstrated by the degree of forbearance the Japanese have been exercising through the various stages of the discussions, extending over a period of more than a decade. It is confidently believed that the United States Government entertains no misgiving in this respect. Nor is it doubted that the United States Government may lack proper appreciation of the grave effect the judicial decisions above referred to cannot fail to exercise upon the vital interests of the Japanese lawfully resident in the United States.

It is not the intention of the Japanese Government to venture any comment as to the soundness of the judgment passed by the high and distinguished American tribunal that justly holds its place of honor in the annals of the history of the administration of justice. All that the Japanese Government claim for their subjects in the United States is, as elsewhere, fair and equal treatment, in the matter of enjoyment of ordinary

civil rights, such as is given freely to other nationals, to which they believe they are justly entitled, and therefore the Japanese Government are unable to acquiesce in these measures adopted by several States of the Pacific Coast, which in their opinion unfairly and invariably discriminate against Japanese, for the discrimination is not based on their individual merits, but on the race or nationality to which they belong. In this claim the Japanese Government are only voicing the united sentiment of the whole people of Japan.

At the same time the Japanese Government cannot believe, even for a moment, that the United States Government, which stands at all times for international justice based on broad principles of human right and liberty, should ever approve the practice of singling out the nationals of a friendly Power, which has a very natural and worthy pride of its recognized position in the family of nations, as the object of obnoxious discrimination. On the contrary there is every reason to believe that

the United States Government is just as earnest as are the Japanese Government in the desire to maintain and strengthen the friendly relations between the two countries and co-operate in every way possible for betterment of the world's condition in general, which seems to demand today, more than ever, full accord between the two great Powers on the Pacific.

It is with these considerations in mind that the Japanese Government, in a most friendly spirit and with perfect candor, reiterate their request to the United States Government to give the matter its serious consideration, to the end that some steps be taken looking to the removal of the undue hardship inflicted upon Japanese in the United States and to the prevention of a recurrence of such legislative or other form of persecution against them. Having unwavering faith in the well-known sense of justice and fair play of the American people, the Japanese Government cannot but feel confident that this people will not be loath to support

their Government in any honorable endeavor it may make in order to satisfy the just and reasonable claim of a friendly nation. Vexatious as the question may seem at first glance, the Japanese Government remain unshaken in their conviction that it is not one of differences in fundamental principles, but largely an outcome of misunderstanding or misapprehension created by unfortunate local conditions, and is, if approached in a proper spirit, susceptible of a solution which will be consistent with honor and the true interests of both countries.

The Japanese Government earnestly hope that the matter as presented above will commend itself to an early and sympathetic consideration of the United States Government.

Washington,  
December 4, 1923.

(付記)  
右覚書ノ和訳文(外務本省ニテ作成)

(十二月四日埴原大使ヨリ國務長官ニ提出シタル覚書)

日本大使ノ其本国政府ヨリ受領シタル訓令

#### 要領

合衆国内ニ合法的ニ居住スル日本臣民ノ待遇問題殊ニ一九一三年及一九二〇年制定加州土地法問題ニ関シテハ日本政府ヨリ合衆国政府ニ対シ累次其所見ヲ披瀝セルヲ以テ不幸ニシテ今日未タ其解決ヲ見サル本問題ニ対スル日本政府ノ立場ハ合衆国政府ノ篤ト熟知セル所ナリ(一九一三年五月九日同年六月四日同年七月三日同年八月二十六日及一九二一年一月三日付ヲ以テ日本大使ヨリ國務卿ニ致セル書翰又ハ覚書参照)

「ポーターフィールド」対「ウェップ」及他ノ同種ノ三件ニ対シ最近合衆国大審院ノ下セル判決ハ加州法並ニ他州ニ於ケル同種立法ノ適法性ヲ確立シタルモノニシテ嚮ニ日本人ノ米國帰化無能力ヲ決定シタル判決ト相俟チテ啻ニ合衆国内ニ居住スル日本臣民ニ対シ何等救済方法ヲ講セサルノミナラス却ツテ多クノ外国国民殊ニ合衆国ト条約其他ノ特約關係ヲ有セサル國ノ国民ニ対シ自由ニ付与セラルル普通私權ノ享有ニ付テサヘモ峻厳ナル制限ヲ加ヘントスルヲ確

認セルモノニシテ斯ノ如キハ近世ニ於ケル友邦間ノ商業交通史上未タ嘗テ其比ヲ見サル所ナリ

該判決ノ合衆国内ニ在ル日本人ノ實際上ノ利益ニ与フル影響ヲ精密ニ判定シ又影響ヲ受ケタル日本人ノ将来採ルヘキ手段ニ付考慮ヲ廻ラサントスルハ其時機尚早ノ嫌ナシト雖モ太平洋沿岸諸州ニ在住スル多数ノ日本人カ從來農業及之ト密接ノ關係アル商業ニヨリ正当ニ生計ヲ営ムコトヲ許容セラレ居リシ事実ニ顧ミ該判決ノ是等日本人ノ大部分ニ対シ与フル影響ノ重大ナルハ言ヲ俟タス日本人ニ対シ過去又ハ現在ニ於テ非難ノ声アルニ係ハラス事実ノ公平ナル批判者ハ日本人ノ平和ヲ好愛シ法律ヲ遵奉シ更ニ勤勉質実ニシテ其ノ正当ナル勤勞ニヨリ地方産業ノ發達ト繁栄トニ著シキ貢獻ヲ為セルヲ否定セサルヘシ而モ斯クシテ地方ニ於ケル福利ノ増進ニ寄与シタル日本人ハ其地方人民ノ立法自由ノ名ノ下ニ而シテ単ニ此自由ノ遂行ノ米國現行法上形式的ニ可能ナリトノ理由ニ基キ堪ヘ難キ困厄一切言セハ生活ノ直接手段ヲ危クセシメラルルヲ以テ堪ヘ難キ困厄一ヲ蒙ルニ至レルナリ

更ニ又本問題ニシテ司法手段ニ訴フルノ外救済方法無ク自

然ニ放任スヘキモノトセハ從來既ニ其活動ヲ恣ニシタル諸州ニ於ケル所謂排日分子ハ米國最高法院ノ判決ニヨリ刺激セラレ日本人ニ対シ互ニ一層ノ迫害ヲ加フルノ方法ヲ案出セントスヘク且又陰險ナル勢力ヲ有スル同種運動ハ他ノ諸州ニ弥漫ルニ至ルヘシ而シテ過去數年間ニ於ケル太平洋沿岸及隣接諸州ニ於ケル政治及立法ニ関スル史実ハ斯カル危惧ニ対シ充分ナル根拠ヲ与フルモノナリ

日本政府ハ叙上ノ事態ニ顧ミ本問題ニ対スル合衆國政府ノ最モ熱心ナル注意ヲ喚起シ且當事者ノ双方ニ採リ公平満足ナル解決方法ヲ見出サンカ為ニスル其友誼的考慮ヲ求ムルニ至ルノ已ムヲ得サルヲ感スルモノナリ

抑日本政府及人民カ合衆國政府及人民トノ間ニ存在セル重要幸福ナル伝統的友誼及善隣關係ヲ能フ限リ持続セシメ更ニ益之ヲ緊密ナラシメンコトヲ切望シ且之カ實現ノ為熱心努力シツアルハ更ニ叙說ヲ要セサル所ニシテ太平洋ノ彼方ニアル其尊重信賴セル友邦トノ間ニ重大ナル意見ノ相違ヲ見ルハ日本政府及人民ノ最モ痛心失望ノ念ニ堪ヘサル所ナリ日本政府及人民ハ不幸兩國ノ間ニ多年懸案トナレル本問題ノ公平妥當ナル解決ニ到達センカ為一切ノ公正ニシテ

府ハ此要求ヲ為スニ當リ日本人全体ノ一致セル感情ヲ代表セルナリ

之ト同時ニ恒ニ人權及自由主義ノ基礎ノ上ニ立テル國際的正義ヲ擁護スル米國政府カ國際団体ニ於テ其地位ノ確立セルニ対シ自然且相當ナル自負心アル一友邦ノ國民ニ対シテ嫌忌スヘキ差別待遇ヲ設定スルヲ承認スルカ如キハ日本政府ノ須臾モ信スルコト能ハサル所ナリ反之合衆國政府カ日本政府ト同様ニ兩國ノ友誼ヲ維持増進シ所有手段ニヨリ世界全般ノ改善ニ協力セントスル熾烈ナル希望ヲ有セルヲ信スルニ十分ノ理由ヲ有スルモノニシテ今日世界ノ情勢ハ太平洋ニ面スル此二大強國間ノ交友ヲ益欲求シ居レルカ如シ日本政府カ最大ノ友交的精神ニ基キ且最モ虚心坦懷ニ合衆國政府ニ対シ本問題ヲ慎重考慮シ以テ合衆國內ニ於ケル日本人ノ受クル不當ノ困難ヲ除去セムカ為將又立法又ハ其他ノ形式ニヨル日本人迫害ノ再発ヲ將來ニ於テ阻止センカ為何等カノ処置ヲ採ランコトヲ茲ニ反覆要請セントスルハ実ニ之等ノ事實ヲ考量セルヲ以テナリ

日本政府ハ定評アル米國人ノ正義公正ノ觀念ニ堅ク信賴スルモノニシテ米國人カ其友邦ノ公正妥當ナル要求ヲ満足セ

且公明正大ナル手段ヲ尽サムトノ鞏固ナル決心ヲ有セルコトハ過去十ヶ年以上ノ期間ニ亘リ行ハレタル討議ノ種々ナル行程ニ於テ日本人ノ以テ事ニ當レル隱忍自重ノ程度ヲ以テスルモ自ラ明白ニシテ合衆國政府ノ疑念ヲ掃マサルヘキコトヲ確信シテ疑ハス更ニ前掲判決カ合衆國內ニ合法的ニ居住スル日本人ノ死活問題ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキコトヲ合衆國政府ニ於テ十分了解セラルヘキコト亦疑ヲ容レサル所ナリ

日本政府ハ茲ニ司法史上名譽アル地位ヲ正当ニ保持スル崇高卓越セル米國法廷ノ為シタル裁決ニ対シテ何等論評ヲ加ヘントスルノ意向アルニアラス只日本政府カ合衆國ニ在ル其國民ノ為ニ要求セントスル所ハ其米國以外ニ於ケル場合ト同様普通私權ノ享有ニ関シ他ノ國民ノ自由ニ受クル公平均等ナル待遇ニ過ギサルモノニシテ此ノ待遇ハ彼等カ正当ニ享有スルノ權利アリト信シ居ルモノナリ從ツテ日本政府ハ其不公平ニシテ誤解ニ基キ設ケタル日本人ニ対スル差別待遇ナリト認ムル太平洋沿岸諸州ノ立法ヲ片時ト雖モ承認スルコト能ハス蓋シ此ノ差別待遇ハ其個性ニヨラス其屬スル人種又ハ國籍ヲ基礎トスルモノナレハナリ而シテ日本政府

シムルカ為其政府カ公明正大ナル尽力ヲ為サントスルニ後援ヲ与フルニ吝ナラサルヲ信セサラントスルモ能ハサルナリ本問題ハ一見其解決困難ナルカ如シト雖モ日本政府ハ其根本主義ニ関スル相違ニアラス主トシテ不幸ナル地方状態ニヨリ惹起セラレタル誤解邪推ノ結果ニ外ナラスシテ割切ナル精神ヲ以テ臨マンカ兩國ノ名譽ト真ノ利益トニ合致スル解決ヲ期シ得ヘキヲ確信シテ熄マサルモノナリ日本政府ハ茲ニ合衆國政府ニ対シ叙上ノ本問題ニ対シ迅速且同情アル考量ヲ致サンコトヲ一意要望シテ止マサルモノナリ

華府一九二三年十二月四日

五九 十二月二十一日

在シアトル大橋領事ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

米國大審院ノ土地法判決ノシアトル領事館管

内邦人農業者ニ対スル影響ニ付報告ノ件

第二〇一號

(十二月二十三日接受)

貴電合第三三四號ニ関シ

今次大審院判決ノ影響ヲ蒙ルヘキ邦人農家ノ正確ナル數不明ナルモ當館管内農家總數ヲ一千トスレハ其約三分ノ二ハ

土地ヲ「リース」シ三分ノ一ハ往電第一六二号前段ノ方法ニ依リ法律ヲ evade シ居ルモノト認メラル現ニ合法ニ「リース」ヲ有スルモノノ約三分ノ一ハ本年中期限満了スヘシトノコトナリ本官ハ客月以來当地連絡日会法務部員ト共ニ当地付近数多ノ日本会ヲ巡歴シタルカ集会スルモノ頗ル多ク何レモ憂色ヲ湛ヘタリ其際彼等ノ意向ヲ聴取スルト同時ニ大山総領事宛貴電第九五号ノ趣旨ヲ説述敷衍シ法務委員等ハ差当リ必要ナル法律問題就中検事來訪ノ際ニ於ケル心得ヲ説明シ且彼等ノ質問ニ応セシメタルカ右巡視ノ際觀察シ得タル所ハ大体往電第一六二号報告ト同様ナルモ其他特ニ氣付キタル点左ノ通

一、排日熱ノ最強キハ日本人ノ最多ク居住スル「シアトル」ヲ含ム「キング、カウンチー」ニシテ此地方ニ於テハ排日検事ノ脅シ文句ニ応ジ「リース」ニ關シテハ日本人ノ立退ヲ迫リタル地主已ニ二、三十件ノ多キニ上リタル趣其他ノ日本人区域例ヘハ「タコマ」ヲ中心トスル「デアース、カウンチー」「ウインズロー」ヲ中心トスル「キサッブ」ニ於テハ未タ二、三件ニ過キス

二、排日ニ絶望シ日本ニ帰ラムトスルモノ無キニ非サレト

モ其數極メテ少ナシ大部分ハ何トカシテ危機ヲ脱シ子女カ市民権ヲ獲得スルカ若ハ彼等ニ有利ナル條約ノ締結セラルルヲ夢見ルモノ多シ前記立退ヲ迫ラレタルモノモ未タ其土地ヲ去ラス農場労働者トナルカ又ハ他ノ職業ニ転スヘキカニ付考慮中ナルモ生活ニ窮シ居ルモノ無キカ如シ然モ排日検事ハ来年早々日本農家ヲ歴訪檢査スル積ナリト云ヘハ將來追出ヲ食フ日本人激増スル虞アリ

三、彼等ハ一律ニ現地ヲ離レ他地方ニ移住スルヲ好マス已ニ「リース」無キモノモ表面地主ト労働契約ヲ結ヒ月給ノ外ニ收穫ノ成績ニ依リテハ「ボーナス」ヲ払ヒ得ル規定ヲ定メ肥料ノ買入收穫物ノ売込等一切地主ノ名ニ於テシ右諸事實ヲ証拠立ツヘキ帳簿ヲ備ヘ一時ノ急ヲ免レムトスルモノ多ク(労働契約書式ハ日会ニ於テ近ク完了ノ筈)排日検事ハ右ハ労働契約ノ下ニ「リース」ヲ永続スルモノト為シ其内「テスト、ケース」ヲ起スヘシト云ヒ居レル由ナリ

四、更ニ当地日会ニ於テハ米人ヲシテ会社ヲ組織セシメ之ヲシテ地主ト已ニ切レ又將ニ切レムトスル「リース」ヲ契約シ日本人ハ之ニ所有ノ牛等ヲ適當ノ価額ニテ売り且会社ノ労働者トシテ働ク形式ヲ執リ事實上現狀ヲ維持セムトス

ル方法ヲ考慮中ナリ

当地方ハ加州ト異リ丁年ニ近キ米出生日本人数極メテ少ナク從ツテ未成年者ノ名ニ於テ土地ヲ所有スルモノ相当ニ多ク右ハ親ノ信託ニ依ルモノトシテ檢査サルル憂アリ尚加州ト異リ收穫契約ナルモノ殆ト存セス会社ニ依ル土地所有モ極メテ少ナシ

五、土地法無キ他州ヨリ日本人ヲ「インヴァイト」スルモノボツボツアルモ唯旅費ヲ払ヒ土地ノ調査ニ行クモノ少シ在米大使及各領事ヘ郵送

### 3 雜件

六〇 一月十日 内田外務大臣ヨリ  
在シアトル、ポートランド、  
桑港、ロス・アンゼルス、ホ  
ノル各公館長宛(電報)

米國大審院帰化訴訟判決ノ在留邦人ヘノ影響、現行帰化手續法以前及ビ戰時帰化法ニヨル帰化人数等報告方訓電ノ件

合第三号

大審院ノ帰化判決ハ從來事実上帰化不能ノ状態ニアリタル

一 米國ニ於ケル日本人移民排斥問題 六〇 六一

在留邦人ニ對シ直接ノ影響ハナカルヘキモ之カ為人心動揺シ帰國其他將來ニ對スル計畫ヲ真面目ニ考量スル傾向ニシテ一般的且顯著ニ認メラルモノアリヤ該判決カ貴地方邦人ニ及ホセル影響ニ關シ概略一応本月廿日迄ニ回電シ其後詳細郵報アリタシ

尚現行帰化手續法制定前ニ帰化シタル者ノ數及戰時帰化法ニ依ル帰化人数並ニ是等ノ帰化人カ判決ニ依リ直接受クヘキ結果等貴館ノ関スル限り出来得レハ可成同時ニ電報アリタシ

六一 一月十三日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛

在米日本人會調査ニ依ル加州東洋人隔離教育ノ現状報告ノ件  
機密公第四号 (二月十三日接受)

大正十二年一月十三日

在桑港

總領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

加州日本學童隔離學校ニ関スル件